

JAC Tochigi

2014年

4月号【第7号】

2014(平成 26 年) 4月1日発行

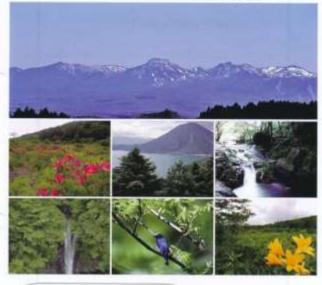
- p1. __ユースクラブ発足へ!!
- p 2. -12. __会員投稿のページ
- р 13. -36. 2012 年度の活動の足跡
- p37. __猪熊講師の本の書評です
- p38. __おもしろ写真コーナー
- p39. __支部会員名簿、総会の記録
- p40. __事務局より、あとがき

「山の日」実現に向けて!!

2013(平成 25)年6月2日(日)に「『山の日』をつくろう!栃木集会」が開かれた。栃木 県の山を愛してやまない多くの方々が一堂に集って、山の楽しさ・美しさ・資源として の貴重さを再確認しあうとともに、6月第一日曜日の「山の日」実現に向けて意見を交 換した。本支部も主催3団体の一つとして全面的に支援を行っているところである。 「2013年度の活動の足跡」に詳述するのでご覧下さい。

国民の祝日「山の日」

の実現を!



- 山から切れる水はやがて大きな川となり、 海洋生物を育む養分を知へと運びます。
- 栃木県は県土の約5.5%を山や森林が占 める内間景です。
- 山の恵みを将来にわたり享受できるよう。 山に樹踏し、守り、育てるために、栃木県 は国民の祝日「山の日」の制定を目指して います。



栃木県の提案により、関東地方知事会では「山の日」の制定 及び祝日化について、国へ提案・要望を行っています。

「山の日」の制定及び祝日化について

我が国は、国土の7割を山が占めており、山の豊かな森林 は、国土の保全、水資源のかん養など国民生活に不可欠な機 能を有している。

また、国民は、古来より山を身近な自然として親しむとと もに、その生活の中で伝統文化や産業を育んできており、山 は林葉のみならず観光などの貴重な資源である。

さらに近年、地球温暖化の影響が顕在化する中、森林の持 つ二酸化炭素吸収器としての役割にも大きな期待が噎せられ ている。

こうした。山のもたらす様々な恩恵を将来にわたり享受で きるよう、国民全体が山に膨強し、山を守り育てていくため の意識の向上を促すため、次の事項について担業する。

山の役割や恩恵に感謝するとともに、国民の共通の耐産と して守り育てる態派の向上を促す契欄とするため、「山の日」

樹木県総合政策部総合政策課





会員投稿のページ

1 山野井支部長から『50 周年記念ヒマラヤの旅』

- ○「1964 年立教大学バルンツェ踏査隊」の大倉・岸野・遠藤・山野井と慈恵医大〇Bの横山D r は、50周年記念として、ゆかりの地を訪れようと、3月1日成田発 17:30のタイ航空で出発した。コルカタへは乗り継ぎで2日0:30到着。インド博物館隣の「リットンホテル」には3:00チェックイン。昼過ぎからは市内見学に出かけた。ガイドは頑張って金ぴかジャイナ教の寺院を案内してくれた。午後16:30カトマンズ入り。
- ○空港から街へ向かう。駐車場から出るのにも一苦 労。パズルのようにあちこちと進んで、ようやく通 りへ出る。赤信号でも止まらないのが多いし、ポリスも全く注意しないようだ。車・自転車・人間が混在しているが、事故は少ないという。立派なものだと変に感心してみたりする。宿は「ヤク&イエティ」。私以外の4人は街へ出かけたが。私といえば部屋で地ビールの銘品エヴェレストにチャレンジする。のんびりと味わって、1959年からの回想にふけった。
- ○4日にはナガルコットへ向かった。64年の時はナムチェからの帰りのキャラバンでは、神原達さんの車に助けられ、神原さんが神様となった処だ。今や展望のきく場所であり、多くのホテル、ロッジが点在していて、ポカラに次ぐ人気の場所だ。
- ○5日4:30 防寒着を着用し、日の出とヒマラヤの山 並みをを見ようとに展望台に出ると、阪急ツアー で来られた関西弁のおばさんが50人ほど陣取って いた。5:00 待望の日の出だ。それとともに霧が飛 んでいって消えて、ロールワリン・ランタン・エヴ ェレストが一気に見渡せる。ヒマルチュリは特異 な姿を見せてくれる。ここには13:00 頃までいて カトマンズに帰り、もとの「ヤク&イエティ」に戻 る。
- ○6日は自由行動日で、私は旧友である元毎日新聞 現地特派員ピナヤ氏、仏教僧ムクシダ氏等と会話 を楽しめたし、岳兄数名の供養もつとめたので、大 いに安らぐことができた。
- ○7日、カトマンズから40分のフライトでビラトナガルに入る。素晴らしい道路がダランバザールまで約40マイル続く。英軍グルカ兵新兵募集所がある恩恵を被っているようだ。50年前、神原達氏の

- 助言で、英国武官ワイリー氏(1953 年ハント隊)の 好意にあまえてキャンプに入った後、63 人のキャ ラバンを編成した想い出の場所である。そこを曲 がってバザールの外れから山に入道に入る。曲が りくねった山道を登り、山から崩れた土砂に覆わ れた河原を延々と走る。やがて行く手上方に、白い 建物が少しずつ姿を現してきた。ダンクッタの街 である。ここからはほぼ尾根筋を通って街の宿舎 に入る。荷を解き、街を散歩すると、近くの丘に新 築中のホテルが見える。
- ○8日。丘の近くで車を降りて周囲を見渡すと、周り一帯300度くらい山また山。水の便を尋ねると、保水性の土から湧出している水の他に天水、そして圏を利用するとのこと。近々名所が増えるだろう。下山して英軍キャンプの場所を聞いて訪問することになる。旧キャンプは昔と変わらぬ姿であった。新キャンプは10キロくらい離れていたが、突然の訪問にも拘わらず喜んでくれた。
- ○9日。ビトラモードからカカルビッタへ。ここはインドとの国境である。30分ほど歩いてインド側に入り、ラニガンジを経てダージリンへ向かう。山が近づくにつれて紅茶畑が出現。ダージリン茶とアッサム茶の差について語った。整備された道を登り下りしながら進むと、車の混雑が目立つようになる。ロバート通りの「セントラル・ヘリテージホテル」に入る。街を一回りしたあと、早めにベッドに入った。
- ○10日3時起床。車でタイガーヒルへ向かい、日の 出とカンチェンジュンガを拝むことにする。車の 列が延々と続く。4:40頃駐車場に着き、車から降 りて展望休憩室に入り日の出を待つ。5:20くらい であったか、日の出瞬間にどよめきがおきる。さら にねばって待つこと30分、ようやくカンチェンジ ュンガが見えると再びのどよめき。カムバチェン・ ホワイトウェーブ。1973年の豪雨との苦闘を思い 出して、この場を離れ難くなった。この感動は大満 足と言わねばなるまい。ホテルに戻り、午後はトイ トレインを楽しむ。その後ヒマラヤ登山学校、博物 館を見学する。展示のなかでもテンジン・ノルゲイ は別格扱いである。氏が来日した時、奥日光に案内 してスキーを楽しみ、子供達に天神さまと呼ばれ たこと、成川氏とともに東照宮を案内し、ヘッドラ

マなどと適当な通訳をしたら、山崎安治さんが苦 笑していたことなどな次々に思いだされて、気が ついたら迷子になりそうであった。 隣接の動物園 も見所が沢山あったが、動物がみな元気だったの には驚いた。 やはり飼育方法や気候の差によるも のなのであろうか。 ○11日。バグドグラまで車で移動。そこから空路コルカタへ向かい、15:50着。市内観光をして時間をつぶし、翌12日2時のタイ航空でバンコクに飛ぶ。ここでもちょっとだけ観光、そして仮眠の後、22:30発成田行きに搭乗。成田には13日6:50着。こうしてなんともノスタルジックな旅は終わったのだが、燃えるような若き日を想い出す毎日が楽しく、また友情の有り難さを心から感じることのできた旅、小さいけれども大きな満足感を感じることのできた旅であった。



←写真

1964年のメンバー 英軍キャンプにて

(右から)

大倉野 オブリー大会 大佐



←写真

2014 年のメンバー ヒレ高原にて

> (右から) 大倉 井

横 遠 岸 山 藤 野 Dr

2上田会員から『支部ひだまり山行』二編

ひだまり山行(1)…雨巻山【2014年2月26日(水)】

- ○冬の陽だまり山行を始めて二回目(1月は太平山)。 2月26日・・・・小枝も動かず穏やかな春の陽射しが ぼーっと、もやっているそんな1日でした。
- ○坂口、北見、鈴木、山本、関根、中村、石井、長、前田、鈴木から大病してリハビリのために雨巻を1000回以上も登っている人が行きたいとのことで、その方が石井、茨城支部の山田、上田、合計12名の大所帯になった(敬称略)。集合して1000回記念をされた石井さんは何と山本さんと高校の同期の方。鈴木さんの知人が山本さんの高校の友人とは・・・
- ○三登谷山では土留め用の丸太をボランティアで頂上まで運んでいる青年に会い、それでは私たちも公益社団法人よろしく4本運びました。(お疲れ様でした!)私は毎週の雪かきで腰を痛め、腰は痛くないのに足が痛いという具合で、三登谷山だけで帰るつもりで、分岐点につくと山本さんが「ここから林道へ下山できる」と言われても、登りの場合には膝は痛くなく、初春の雪の混ざり合った山道をもう少しもう少しと、とうとう雨巻山の頂上まで来てしまいました。
- ○頂上には木箱が人の胸の高さにあって、石井さん (男性)はふたを開けて中のノートを出して記帳 しました。2月15日に1000回記念パーティをさ れた写真が貼ってありました。脳梗塞を患い、その リハビリとして登山を選んだそうです。一日に2 回も登る日もあったとのこと、何時ごろから登り 始めるのですか、と聞くと、5時くらいから登れば 下山してから普通の生活ができるとのこと、

- これには参りました!!! 一日かけて登ってああ 疲れた! なんて言ってはいけないのですね。普通 の生活というのは9時ごろからちゃんと仕事をするということですよね。キャーすごい!!! ○ランチタイム、1時間、展望台へ行ったと思ったらも う帰ってきました。関根さんと石井さんです。春霞でもやっていたとのことです。1時下山開始、"猪転げ坂" 猪突猛進!! 転がって落ちたほうが早いかも、と考えながら、'く'の字形にボランティアの材木が土にしっかりと入り込んで転ぶ人もなく全員峠まで降りて、ここで足尾の方へ行かない方がいいだろうとのことで林道へ降りることになった。
- ○2時半駐車場に着く、出発時に宇都宮年金バスが 停車して私たちが着いたときにはもうすでに皆さ ん出発した後で、会わなかった、バスの一行は足 尾、御嶽へと進み、従って私たちの方が早く出発点 に着いた。雑談していると、重い足取りで一行が戻 ってきた。支部の臼田さんだった。坂口さんが声を かけてくださった。
- ○正造さんの言葉を借りると、真の登山家は山を荒らさず、川を荒らさず・・・山を歩いて荒らしてしまったかな?
- ○よその土地へ行ったら何か買ってこい、身を落とすことと祖母の言葉を思い出したものの益子町になにも落とさず、お土産も買わず帰宅。ただ利用するだけで申し訳なく、今度の山行にはあの益子のメインストリート歩こうと思う。(上田記)



ひだまり山行(2)…松倉山【2014年3月16日(日)】

- ○北見さんから1月太平山山行後に「今年は一等三 角点の山を行こうかと思っている,次は松倉山」と 便りをいただいた。
- ○松倉山??聞いたことがない!!!それから山の本を探し調べる。森元一さんの市内であることがわかり、早速森さんに相談、というか半ば強制的にお願いしてしまった。2時間ほどの行程なので、加えてプラスアルファーもう一つ烏山をPRするような所をお願いした。森さんはお仕事の合間を観光課、教育委員会に足を運び、パンフレット、大きく引き伸ばした地図、ちゃんとマーカーペンで印までつけてくださった。参加者は 森さん、山本さん、前田夫妻、関根さん、長さん、中村さん、上田、8名。三角点を教えてくださった北見さんは体調が良くないとのことで欠席され、あれれ?あ、あ。
- ○大木須小学校跡地9時集合へ行く途中、「洞観音堂」 300mという看板が目に入り、山本さん「帰りは この道通らないから、ちょっと寄っていくか」断崖 になっているところに祠があって観音様が祭られ てあった。車に戻って9時、あ、あ、遅刻だ!・・
- ○9時半出発、フクジュソウの咲き乱れる農家の間の小路を抜けて一等三角点へ、1時間ほどで頂上に着いた。我々より先の中年グループがもう食事をとっていたので、観音堂に戻って我々のグループだけで食事、この観音堂には十一面観音があって毎年1月17日に公開されるという、来年はぜひお目文字を願いたいな~と思った次第。そこで前田さんが谷川岳虹芝寮の話をした。帰途はちょ

- っと荒れた竹林の中を大股で竹をまたいだりしながら下山、3月16日にしては暖かな日だったので、だらり・・とろりと大木須集落を歩いて駐車場へ。
- ○もうお腹も一杯で三角点も見たし、後半の計画は 半ばどうでもいいですよ・・・なんて具合になりそ うな雰囲気で、それでも森さんの指示に従って5 台の車は烏山城址跡地へ資料館に駐車。八雲神社 を抜けて毘沙門山へ、展望台から那珂川の見事な 蛇行が眼下に見え、"あ、あ、絶景なり!!"と殿 様が言ったかどうか?どんなにか水害を恐れたで あろうと想像した。筑紫山で記念撮影、ここでなぜ 筑紫なのかを論議する。分け入って行くといよい よ烏山城址跡、昼なお暗き杉木立、鬱蒼として一人 や二人で歩くにはちょっとこわーーいか な?苔むした石垣や階段、外部からの侵入を防ぐ 掘割などが各所に残っていて、栄枯盛衰を忍ぶに は十分であった。
- ○森さんは烏山は何もないところと謙遜しておっしゃるが、今で云うきらびやかな繁栄はなくても、ここの穏やかで風光明媚な土地にあったものが子供たちに受け継がれているとパンフレットには書いてあった。集合場所の大木須一帯はかってはオオムラサキ蝶の生息地で、オオムラサキを呼び戻そうと木を植えたり、繁殖しやすい環境づくりを小学校時代から取り組んでいるとのこと、5年たったら、10年たったら青い空にムラサキの大きな二つ折りの恋文が花の番地を探すように(朝日新聞天声人語より)なるかもしれない。(上田記)



3 石澤会員から『ネパール・トレッキング』報告

トレッキング隊行動表

目的地:ネパールヒマラヤ アンナプルナ・サーキットコース

出発地:カトマンズ・ポカラ・カーレ・シリチョール

隊 員:安田里子・石澤好文・石澤令子(3名)

| 目 | 時 | 行 動 概 要 | 備 | 考 |
|--------|-----|---|----|----|
| 10月 | 1 目 | 成田出発 - 香港 - カトマンズ (キャセイ航空・ドラゴン航空) | | |
| 10月 2 | 2 日 | カトマンズ - ポカラ (イエティ航空) | | |
| 10月 3 | 3 目 | ポカラ $-$ カーレ(車) \sim オーストラリアンキャンプ(2,100m) | | |
| 10月 4 | 4 日 | オーストラリアンキャンプ ~ カーレ - シリチョール (車) (1,200m) | | |
| 10月 5 | 5 目 | シリチョール ~ ジャガット ~ チャムチェ ~ タール(1,700m) | | |
| 10月 6 | 6 目 | タール ~ ダラパニ ~ バガルチャフ ~ ダナキュー | | |
| 107, 0 | Эμ | \sim ティマン (2,270m) | | |
| 10月 7 | 7 日 | ティマン ~ チャーメ ~ ディキュールポカリ | | |
| | | ~ ロワーピサン (3,200m) | | |
| 10月8 | 3 日 | ロワーピサン ~ フムデ(3,280m) | | |
| 10月 9 | 9 日 | フムデ ~ ナガール ~ 高所順応 $4,100$ m 地点 ~ナグアール $(3,660$ m) | | |
| 10月10 | D 日 | ナール ~ ヤクカルカ上部(4,000m) | 登山 | 」隊 |
| | | ~ナガール (3,660m) | と合 | 流 |
| 10月11 | 1 日 | ナガール ~ マナン (3,540m) | | |
| 10月12 | 2 日 | マナン ~ ロワーピサン (3,200m) | | |
| 10月13 | 3 日 | ロワーピサン〜 チャーメ 〜 ティマン (2,270m) | | |
| 10月14 | 4 日 | ティマン滞在 | | |
| 10月15 | 5 日 | ティマン ~ ダラパニ ~ タール(1,700m) | | |
| 10月16 | 6 日 | タール ~ シリチョール(1,200m) | | |
| 10月17 | 7 日 | シリチョール - カトマンズ (車) | | |
| 10月18 | 8 目 | カトマンズ市内観光 | | |
| 10月19 | 9 日 | カトマンズ - 香港 (ドラゴン航空) | | |
| 10月20 | D 日 | 香港 - 成田帰着 (キャセイ航空) | | |

※ 登山隊が1日早く下山となったのでBCまでの山行は断念し、途中のヤクカルカ上部のバッティ(約4,000m)まで到達した。



トレッキング隊行動記録

※10 月 10 日以降は登山隊・トレッキング隊合同 の記録(10 月 1 日~10 月 20 日)

10月1日(雨)~出発~

○ここのところネパールは天候が悪く、雨季が続いているようなのでしばらくは雨という予想だが、ヒマラヤへの期待を沢山持って成田に向かい、10時30分機上の人となった。香港経由で深夜にカトマンズに到着したら、エージェント社長のデニッシュ自ら迎えに出てくれていた。 黄色のマリーゴールドで作った美しいレイを首にかけてもらいフジホテルに向かった。

10月2日(曇り)~ポカラへ~

○8時頃にデニッシュが顔を見せ、ガイドのマン・ バハドゥール・マガールを紹介してくれた。予 想に反して流暢な日本語を話したので驚いた。私達 はラッキーなトレッカーである。昼頃に飛行機でポ カラに向かう。車では5~6時間かかるという が、35分で飛ぶ。やっぱり雨季は明けていな いようで、空からもポカラについてからも山々 は厚い雲に覆われてまったく見えなかった。 街に遅い昼食をとりに出かけ、今回初めてのタ ルカリ・ダルバートを注文した。おいしくおか わり自由だが完食はむずかしいほどの量だ。時 間があるのでタクシーを頼み国際山岳博物館と チベッタン・キャンプを訪ねた。博物館はネパー ル登山協会が世界各国の山岳関係者からの支援をう けて設立し、国の多様な民族の暮らしと文化や山の 自然、ヒマラヤに関する世界の歴史資料が展示され ており、エヴェレスト登頂の記録写真や装備など日 本や各国の登山隊の資料が広い館内に多数展示され ている。入館料は外国人のみ有料 (300Rs)。チベッ タン・キャンプは、チベット難民がつらいテント生活 を送っていた場所だが、今では家に住みヤク (チベッ ト牛) の毛や羊毛で絨毯を織る工房で働いたり、民芸 品を作って売るなどして生活しているそうだ。工房 を覗く。 街に戻ってプリムスのガスカートリッ ジをなんとか見つけ出し、小雨の中ペワ湖の付 近を散策してホテルに戻る。

10月3日(曇り)~オーストラリアンキャンプへ~

○ダウラギリも見えるはずのオーストラリアンキャンプへ車で出かけたカーレから登る。2,050mの高さがあり眺望の良いキャンプ地だが、雲におおわれてダウラギリ(8,167m)は見えず、わずかに数分ほどアンナプルナ南峰の一部が見えたが、隣のマチャプチャレ峰(魚の尾びれのような双子峰)はほとんど見えなかった。それでも、大型船の船首のように

突き出た丘の草地からは遠くポカラ方面が眺められ、 うねうねと山肌を覆いつくす緑の段々畑は足元のは るか下に見えた。

10月4日(小雨のち曇り)~登山隊の後を追う~

○オーストラリアンキャンプからカーレに下り、 再び車をチャーターしてブルブレを越えてマル シャンディ河辺のシリチョールをめざす。悪路 にはね上がる車にもまれながら手足を突っ張る などしてひたすら耐え、7時間半後の夕方5時 頃にロッジに到着。

10月5日(曇り)~いよいよトレッキング開始~

○今日からトレッキングが始まる。ポーターのジバーは1人で3つの荷をかつぐ。30kg以上はあるだろう。雨は上がり空が見え始めた。歩いて行くと色々な姿の美しい滝が次々と現れ、かなりの高さがあり街道を横切ってマルシャンディ河に流れ下る。対岸にも多数見られ、はるか上方から白布を流すように落ちる。その水量はおどろくほど豊富だ。宿泊地タールは、家々の庭に色とりどりに花が咲き、裏山には数本の滝が流れ落ちる美しい街だ。

10月6日(曇りの雨)~タールからティマン~

○昨日までは車道を歩いたが、今日はマルシャンディ 左岸のトレッキング道をゆく。ワイヤー製の釣り橋 を渡ると景色も変わる。ダラパニはマナスル方面の 谷と分かれる分岐だ。ダナキューを過ぎ、あえぎなが ら急な登りを詰めるとティマンは近い。

10 月7日(快晴)~ティマンからピサン~

○昨夜遅くにエージェント社長のディネッシュ・マガールが到着し、私たちと一緒に歩きながら携帯電話でやり取りして登山隊の情報をくれることになった。アンナプルナⅡ峰(7,937m)、アンナプルナⅣ峰(7,525m)の雄姿も現れ、ヒマラヤ襞が美しい。ピサン峰のピークが見え出し、11人が遭難したとのマンさんの話を聞く。全員絶好調。視界の開けたローワー・ピサンに泊まる。標高は3,200m。いよいよ三千mを越えた。

10 月8日(快晴)~ピサンからフムデ~

○広い台地が広がり、その真ん中を流れるマルシャンディ河の両側奥の右上方にピサンピークとチュルー峰、左にアンナプルナⅢ峰(7,555m)とガンガプルナ(7,454m)の峰々が天高く迫り出して競い合う。フムデ空港は今は営業していないという。 何度かヘリコプターがマナン方面に飛んでいった。軍のヘリらしい。標高は3,280m

10月9日(晴れ)~フムデからナガール~

○大きなマニ車を納めた白いマニ塔を中心に置いたナガールの村に上る。標高は3,660m3階建ての新しい

ロッジに入る。明日に向けて高所順応のために裏山 に登る。裏山といっても標高は高く、4,100m付近ま で上った。気になっていた令子さんは絶好調で安心、 感心。

10 月 10 日 (晴れ) ~ナガールからヤク・カルカ上 部往復~

○登山隊が登頂成功したので、1日早く下山するというので BC の近くまで迎えに行こうということになり、ヤク・カルカ上部のバッティがある 4,000m 付近まで登った。スペイン隊も登っており、次々と下山する隊員を迎える。

10月11日(うす曇)~ナガールからマナンへ~

○1日の余裕が出来たので先のマナンまで出かける。 土産物屋が軒をつらねており、外国人が多数行き交 う大きな街である。ガンガプルナ氷河の舌端にある 美しい氷河湖を見に行く。

10月12日(曇り)~マナンからピサン~

○今日からは本当のリターン。帰路のトレッキングとなる。街道を戻りながら来る時に感じた事やロッジでの語らいを思い出しながら歩く。昼ごろロワー・ピサンに着いたので、毛塚隊員は1人なつかしのアッパー・ピサンに遊びに行った。

10月13日(曇りのち雨)~ピサンからティマン~

○ティマンに着く頃には雨が降ってきた。予報ではこれから4日間の雨という。登山隊がテントに泊まるはずだったが雨が強くなり他のロッジを捜した。夜のキッチンでは2人の若い娘がヤクの肉を焼いたり、ミルクティーを用意したりして暖かなもてなしをしてくれた。ロキシーはカップが空になるとやかんで注いでくれる。マンさんの陽気な太鼓とチェリンの歌、皆でネパールの国民歌の「レッサン・ピリリ」を大合唱し、チェダが踊り、隊員も負けずに唄い踊った。ここ数日は祝日であるダサインというネパール最大のヒンドゥー秋祭りがあり、ポーター達も休みを取らせなくてはならないということで、明日は滞在とした。

10 月 14 日(雨)~ティマン滞在~

○今日も雨降り。午前中は各自のんびりしたが、午後は 長老のキランさんがダサインの行事を全員に執り行い、厳かにティカというお祝いの印を額につけてくれ、マリーゴールドの花と50ルピーをくれた。夕方からは前夜と同じ大パーティーとなり、唄い、ネパールダンスを楽しんだ。「レッサン・ピリリ」の大合唱は何度も続いて笑顔だらけになった。

10月15日(雨)~ティマンからタールへ~

○雨の中マルシャンディ左岸を行く。狭くて滑りやす い道が続くので慎重に歩くと思いきや、皆元気に歩 く。サンダルを履いていた久我さんが真っ先にヒルにやられていた。タールまでの道中の最後のところで、簡単に横切れたはずのいくつかの滝の流れが激流に変わり、危険な状態になっていたので、ガイド2人とチェダが手助けしてくれて無事に渡る事が出来た。タールではロッジのまわりには濡れた物がずらりと干された。雨は降り続く。

10月16日(雨のち曇り)~タールからシリチョール~

○前日下げていたてるてる坊主が願いを聞いてくれたのか、朝は雨だったが次第にあがって昼頃から空が見えてきた。この地で最後の食事となるので、コックが張り切って鳥のモモを肉のカラ揚げを出してくれた。一人一本なので何羽やっつけたのか?さらに大きなケーキが出されて腹は大きく膨らんだ。

10 月 17 日(うす曇)~シリチョールからカトマンズ

○やっと晴れてきた。チャーターした車2台に隊荷を 積み、皆で集合写真を撮った。ブルブレを過ぎ、ベシ サハールで昼食をとり、バスやトラックなどと競い 合い、18時半頃カトマンズのフジ・ホテルに戻る。

10月18日(曇り) ~カトマンズ~

○本日は自由行動で各自市内を散策してみやげ物屋や 登山用品店を歩く。中野さんのみネパールに残り、数 日後にはエヴェレスト街道を目指す予定である。 夕方にデニッシュが盛大なさよならパーティを開い てくれた。



|高所順化で 4100m まで登る。チュル一峰をバックに

10 月 19 日・20 日 (曇り) ~カトマンズから帰国の途に~○夜の便で経由地の香港から日本へ帰国。



ロキシータイムの想いで 石澤 好文

- ○1日の行動を終えロッジで一段落した 4 時頃『石 澤さんロキシータイム!』とガイドのマンさん の声がかかる。
- ○カトマンズからポカラに飛び、オーストラリア キャンプに入った頃から、ガイドのマンさんが、 私が酒を好きなことをいち早く察知しトレッキ ング中の毎日のように声がかかる。ロキシーを 飲むことが恒例になってしまった。私にとって は最高のことであったが。
- ○ポカラの高級レストランでは、ロキシーはなかったが、トレッキング中のロッジではどこにもあった。場所によって微妙に味が違う。やはり 奥地に行くほど酵母の匂いがし日本酒に似た香りがあった。
- ○ロキシーの値段も1杯100ルピーほどであった。ネパールの物価を考えるとかなり高い。最初は飲むたびに精算していたが、面倒になりマンさんに1000ルピーを預け頼んでもらうことにした。マンさんが頼むとネパール人料金で飲めることになった。マンさんがやかんからどんどん注いでくれる。結局毎晩4~5杯飲んでしまった。お金が足りなくなったら言ってくれといっておいたが、結局催促はなかった。



○今回のトレッキングを振り返ってみると、ネパールは15年ぶりの2回目であったが、物価が高くなった印象である。これは、マオイストが政

- 権を取ってから、外国人料金を設定したことによる。これは外貨を稼ぐためには仕方ない面もあるが、早く撤廃してもらいたい。パシュパティナート(世界遺産になっているヒンドゥ教寺院)の拝観料がなんと1,000ルピーであった。
- ○さて今回のトレッキングであるが、計画の段階 から安田隊長をはじめ野村海外委員長、喜内総 隊長、粂川登山隊長には迷惑をかけっぱなしで した。初めて一隊員として参加させていただき なんのプレッシャーもなく実に楽しい日々を過 ごさせていただきました。



- ○今日泊まる場所も分からないまま何も考えず、 ただ 8、000m 級の山々を眺めながらのトレッキ ングは最高でした。
 - ○またガイドのマンさんを始めスタッフにも恵まれました。お陰様で4kg も太ってしまいました。
 - ○今までの海外遠征は職場の関係で夏休みしか休暇が取れず、モンスーンの影響を受けるネパールの山は対象外であり登山の対象として考えたことはありませんでした。しかし今回アンナプルナ山群を歩いてみてネパールの山の素晴らしさを実感しました。山岳連盟70周年記念登山もネパールの山を登りたいと思いました。
 - ○このような楽しい思いをさせていただいた 隊員の皆様をそして事務局の皆様に感謝し駄文 を締めくくりたいと思います。

4 渡邉会員が韓国の『ヒマラヤ』 雑に掲載されました

渡邉会員には栃木支部事務局長でお世話になっていますが、国立登山研修所長としての重責も担っておられます。

한국 방문한 일본 국립등산연구소 소장 와타나베 유지씨

"일본 산에서도 안전산행 하세요"

글 안준영 기자 · 사진 이영준 기자



2009년부터 지금까지 일본 국립 등산연구소 소장을 맡아온 와타나 베 유지씨가 지난 9월 8일 한국을

방문했다. 일본 국립등산연구소는 2010년부터 국립공원관리공단과 업무협약을 맺고 교류를 해 왔으며, 외타나베씨가 등산 교류 목적으로 방한 한 건 이번이 두 번째다. 국립공원관리공단 구조 대원들과 함께 안전동산보급, 산약조단구조 등 의 연수 프로그램을 마친 그는 '한국과 일본이 사 용하는 장비가 비슷하여 구조 기술에는 큰 차이 가 없었으며, 기존 구조기술을 확인하는 기회가 되었다'고 소감을 말했다.

지금은 우리나라와 일본의 산약 구조 기술이 비 슷한 수준에 있지만, 일본의 산약구조 활동은 우 리나라보다 앞선 1967년에 일본 문부성에서 국 립등산연구소를 설립하면서 시작됐다. "설립 당 시에는 산약조난사고가 많았던 시기였다"며 와 타나베씨는 국립등산연구소의 설립 배경에 대해 서 설명해주었다.

"일본은 1956년 마나슬루 초등정을 계기로 등 산이 대단히 발전하기 시작했어요. 이른 바 '등산 붐'이 일었죠. 그런데 등산에 대한 기술과 지식이 전혀 없는 시람들이 산에 가는 바람에 조난 사고 가 많이 생기기 시작했습니다. 특히 대학생들의 등산을 비롯해, 통계 산악 사고, 사회인들의 압벽 등반 사고가 빈반하게 일어났어요."

이러한 일본 국내 사정으로 문부성에서는 조난



사고를 방지하기 위해서 국립동산연구소를 설립한 것, 국립동산연구소에서는 여러 산약회의 리더 또는 교사, 경찰·소방·자위대 구조대를 대상으로 산약구조 교육을 하고 있다. 와타나베씨는 "최근에는 중고령자들의 산약 사고가 들고 있는 추세"라며, "산약 사고의 직접적인 원인은 추락이나 넘어짐이지만 그 근본은 체력과 트레이닝 그리고 등산에 관한 기본 지식과 기술이 없기때문"이라고 설명했다. 이에 따라 일본 국립동산연구소에서는 일반 등산객들을 대상으로 안전 등산 교육과 책자를 제작·배부하고 있다.

이번 연수 기간 중 주말에 북한산을 다녀온 5 나베씨는 "등산로를 가득 메울 만큼 많은 한글 산인구에 놀랐다"며 "일본도 등산국가라고 5 만 한국만큼 등산인구가 많지 않은데 한국(은 운동을 즐겨하고 적극적인 사람들이라는 상을 받았다"고 한국을 방문한 소갑을 말했 그는 이어서 "한국 등산객들이 일본의 산을 5 주는 것은 매우 고마운 일이지만, 한국의 산, 해발 고도가 높고, 날씨 변화가 십한 일본 5 환경에 유의해서 안전한 산행 준비를 해서 5 해주길 바란다"는 당부의 인사도 잊지 않았다.

322 mountain 2013 to

韓国を訪問した日本国立登山研修所所長渡辺雄二氏 "日本の山でも安全登山してください"

文アン・ジュンヨン記者・写真イ・ヨンジュン記者

2009 年から日本国立登山研修所所長である渡辺雄二氏が、去る 9 月 8 日韓国を訪問した。 日本国立登山研修所は2010 年から国立公園管理公団と業務協約を結んで交流をしており、渡辺氏が登山交流目的で訪韓したのは今回が二度目だ。 国立公園管理公団救助隊員らと共に安全登山普及、山岳遭難救助などの研修プログラムを終えた彼は"韓国と日本は使う装備が似ていて救助技術を確認する機会になった"と所感を述べた。

現在、韓国と日本の山岳救助技術は 似た水準にあるが、日本の山岳救助活 動は韓国より先1967年に日本文部省で 国立登山研修所を設立し始まった。

"設立当時は山岳遭難事故が多かった時期であった"として渡辺氏は国立登山研修所の設立背景に対して説明してくれた。

"日本は1956年マナスル初登頂を契機に登山が非常に発展し始めました。いわゆる'登山ブーム'が起きたのです。ところが登山に対する技術と知識が全くない人々が山に行ったせいで遭難事故がたくさん起こり始めました。 特に、大学生の登山をはじめとし、冬季山岳事故、社会人の岩壁登攀事故が頻繁に起きました。"このような日本国

内事情で文部省が遭難事故を防止する ために国立登山研修所を設立したとの こと。 国立登山研修所では様々な山岳 会のリーダー、教師、警察・消防・自衛 隊救助隊を対象に山岳救助教育をして いる。 渡辺氏は"最近では中高年の山 岳事故が増加している傾向"として、

"山岳事故の直接的な原因は滑落や転倒だが、その根本は体力とトレーニング、そして登山に関する基本知識と技術がないため"と説明した。これに伴い、日本国立登山研修所では一般登山者を対象に安全登山教育とパンフレットの製作・配付をしている。

今回研修期間中の週末に北漢山に行った渡辺氏は"登山道いっぱいの韓国の登山人口に驚いた"として"日本も登山国家と言えるが韓国程は登山人で積極的な人々という印象を受けた"と韓国ある人々という印象を受けた。そして、"韓国人登山者が日本の山を訪れるのは非常に有り難いことだが、韓国の山より標高が高く、天気変化が激しい日本して環境に留意して安全な登山準備をして訪問するように願う"という言葉もれなかった。

2013年度の活動の足跡 2013(平成 25)年春山山行

日時:2013年4月14日(日)

場所: 鹿沼市上永野『尾出山(おでやま)、933m』 参加者: 山野井会長以下支部会員・支部外会員合 わせて 18 名

行動概要

与州バス停先公園 9:00=寺沢林道出合…林道 終点…尾出峠…尾出山 11:40…高原山…No186 送電鉄塔…寺沢林道出合 15:15、解散、役員会

- ○今年の春山は、安蘇と都賀を分ける栃木県佐野市 秋山に接する鹿沼市上永野の鋭鋒「尾出山」に出か けた。かつて勝道上人が修行をした信仰の山とし て知られ、広葉樹を多く残した静かな山だ。期待し たヤシオツツジには少し早く、花は少なくちょっ と残念だった。しかし穏やかな天気の中、途中の林 道にはスミレが咲き、春の山行を楽しんだ。
- ○集合場所の与州バス停先公園 Pで、山野井支部長の挨拶後、車に分乗して出発。寺沢林道を進み、高原山からの下山路と寺沢林道の出会い付近に車を止める。その直後に、遅れて到着の石澤会員が合流し、全員が揃う。簡単な準備体操をした後、沢沿いの林道を更に進み、途中で小休止をとりつつ林道終点に着く。ここからスギ林の中の尾出峠に向う沢沿いの道は、滑りやすく要注意である。ところどころロープが張ってある箇所もあり、注意して登り、30分ほどで峠に着く。休憩していると山頂方面より下りてきた先行パーティとすれ違う。我々同様、比較的大人数のパーティであった。
- ○峠からはコナラ、クヌギの稜線上の岩場の道を進 むとちらほらとヤシオツツジを見かけるようにな る。今日のコースは花は早いようだ。急登の岩尾根 を進むと左に熊鷹山方面や日光方面の山も望める ようになり 11:40 分山頂着。全員揃って「勝道上 人修行第二宿堂跡」の山頂で昼食、記念写真を撮り 山頂を後に。登ってきた道を峠まで戻り、今度はま っすぐヒノキや雑木林の尾根を進む。山田山(地図 上の825m)を過ぎ、峠から1時間ほどで2等三角 点のある高原山山頂着。今日のコースもいよいよ 後半。ちょっと先に進み、見通しの良い送電鉄塔 (No. 185)で小休止。はるか下に登山口の与州平を 望む。いよいよここから下山である。植林されたス ギ林の中、No. 186 の送電鉄塔の下を通り、ジグザ グの道を下り30分ほどで林道にでた。林道の水 溜りにトウキョウサンショウウオの卵を見つけ、 しばし観察。10分ほど歩き、15時15分出発地の 車の所に戻った。計画よりちょっと遅れたが、全員 が全コース踏破、再び、車に分乗し、集合地の公園 着。山野井支部長のご挨拶で解散した。

第1回役員会•事業委員会

日 時:2013年4月14日(日)15:30~

場 所:与州バス停先公園 参加者:役員17名中9名

第2回役員会 • 事業委員会

日時: 2013年5月18日(土)14:30~15:30

場所:宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクェア

参加者:役員17名中12名

○総会を前にして役割分担等の直前準備をした。さらに春山山行報告、山の日制定連絡協議会の連絡があり、支部行事担当者等について協議した。

総会、並びに懇親会

日 時:2013年5月18日(土)16:00~19:20 場 所:宇都宮市『コンセーレ』 2F 会議室

参加者:総会22名、懇親会22名

- ○稲葉委員の進行で始まり、山野井支部長が「本支部 はが創立7年目。積極的に勧誘して新入会員を増 やそう」と挨拶された。前田文彦会員を議長に選び 議事に入る。平成24年度事業報告(渡邉事務局長)・ 同決算報告(石澤委員)及び監査報告(坂口監事)・ 平成25年度事業計画案(渡邉事務局長)・同予算案 (石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で 承認された。『「山の日」を作ろう!栃木集会』に5 万円の分担金を支出することも了承された。また 支部活性化と若手会員育成のために「JAC YOUTH 栃 木の委員会」の設置が承認され、役員・委員会委員 についても事務局案が承認された。沖允人会員に 代わり牛窪光政会員が会計監事となり、新設の JAC YOUTH 委員長には深谷篤志会員が就いた。その他と して、『「山の日」を作ろう!栃木集会』への参加依 頼があり、会報6号が配布された。なお最後に会員 一人ひとりから近況報告があった。
- ○会場を222号室に移して、17:15より懇親会となる。進行は石澤委員が行う。会員22名が参加、会員のスピーチ等も差し挟みながら終始なごやかに 歓談が続いた。
- ○総会内容の詳細は、後述する総会記事を参照してください。

『山の日』を作ろう!栃木集会

日 時:2013年6月2日(日)13:00~16:00

場 所:宇都宮市『コンセーレ』大ホール

参加者: JAC 栃木支部関係者、栃木県山岳連盟

関係者、栃木県勤労者山岳連盟関係者

等約 300 名

【当日配布のパンフレットから】

◎『山の日』を作ろう!栃木集会

主催:栃木県山岳団体『山の日』制定連絡協議会

後援:環境省関東地方環境事務所 栃木県

栃木県教育委員会 下野新聞社 栃木放送 エフエム栃木 NHK 宇都宮放送局 とちぎテレビ コンセーレ ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

◎開催趣旨

我々栃木県山岳団体「山の日」制定連絡協議会は、 平成24年10月3日に開催された『山の日』ネット ワーク東京会議(日本山岳協会、日本勤労者山岳連 盟、日本山岳会、日本山岳ガイド連盟、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストのいわゆる山岳五団体 により結成された『山の日』制定協議会主催)で提唱 された6月第一日曜日の『山の日』制定への運動を受けて栃木県の山岳三団体(栃木県山岳連盟、栃木県勤 労者山岳連盟、(公社)日本山岳会栃木支部)で山の 日制定に向けその機運を高めるための活動をすることを目的として本協議会をたちあげました。

山は我々の登山の対象としてばかりではなく林業、観光などの地域の貴重な資源であり、山のもたらす様々な恩恵を将来にわたり享受できるよう山を守り育てていく意識の向上を啓蒙していく必要があると思います。特に本県は海なし県でもあり日光や那須をはじめ素晴らしい自然に囲まれております。また、栃木県の提案により関東地方知事会において『山の日』の制定及び祝日化について、国へ提案要望をしています。この『山の日』の制定について広く県民に皆様にお知らせする機会として、「山の日」をつくろう!栃木集会を企画しました。

◎『山の日』を作ろう!栃木集会プログラム

【総合司会 柳澤 嘉子】

1 開 会 【13:00~13:20】

(1) 開会宣言 山野井 武夫

(「山の日」制定連絡協議会副会長)

(2) 主催者挨拶 喜内 敏夫

(「山の日」制定連絡協議会会長)

(3)来賓挨拶 福田 富一 氏 (栃木県知事) 西川 公也 氏 (衆議院議員)

2 特別講演 【13:20~13:40】

演題『山は心のふるさと』 船村 徹 氏 (『山の日』提唱者 作曲家、文化功労者)

~ 休 憩 ~

3 シンポジウム【13:50~15:55】

○コーディネーター 喜内 敏夫

(「山の日」制定連絡協議会会長)

○パネリスト 萩原 浩司 氏

((公社) 日本山岳会理事 (山の日担当))

宇賀神 智則 氏

(環境省自然環境局自然ふれあい推進室室長補佐) (前日光自然環境事務所長)

市川 貴大 氏

(ふるさと高原山を愛する集い実行委員会事務局長)

森 初芳 氏

(足尾に緑を育てる会顧問)

4 閉 会 【16:00】

増田 俊雄

(「山の日」制定連絡協議会副会長)



●主催者挨拶【喜内敏夫】

- ○山岳 5 団体(日本山岳会、日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト)が、3 年に渡り、山の日をつくろう!の広報活動を行い、昨年10月に山の日ネットワーク東京会議が開かれた。そこで6月第一日曜日を国民の山の日にしよう!と提案があり、本日がキックオフとなった。
- ○栃木県山岳連盟・栃木県勤労者山岳連盟・日本山岳会栃木支部の三団体は、東京会議の提言、さらに栃木県など関東知事会が国民の祝日「山の日」を国に提言していることに呼応して、昨年12月に「栃木県山岳団体「山の日」制定連絡協議会」を立ち上げ、10回の会合を重ね、栃木県など多くの団体の支援をいただき、本日の集会となった。
- ○山はの登山の対象ばかりではなく、林業・観光など の地域の貴重な資源であり、山のもたらす様々な 恩恵に感謝し将来に渡り享受できるように、山を 守り育てていく意識の向上を啓蒙していく必要が ある。特に本県は日光や那須など素晴らしい自然 に囲まれている。「山の日」の制定を広く栃木県民 に知っていただくため、本日の集会を企画した。
- ○「海の日」があって、「山の日」がないのは、おかしいと思いませんか?「海の日」は平成7年に制定され当初は7月20日だったが、平成15年から7月第三月曜となった。海の恩恵に感謝するとともに、海洋国家日本の繁栄を願う日だが、今では連休が増えたと有難がっているだけ。やはり誰かがつくった、与えられたものでは、思いが少ないのではなかろうか。「海の日」があって、「山の日」がないのは不公平。海の神様、山の神様がいるではないか。是非私達の思いを山の日制定に繋げていこうではありませんか。



●来賓挨拶【福田富一知事】



- ○山ガール、山男をはじめ多くの方々にお出でいただき、盛会に開催されますことを慶びたい。西川代議士が、国会で「山の日」制定するリーダー役を務めているのはこころ強い。「海の日」制定は時間がかかったが、山の日は速やかにお願いしたい。
- ○私は、時間を見つけては年に一度は必ず男体山で 山の神様にご挨拶している。家族等で毎年行って いる。県内の里山も歩いている。
- ○船村先生から、「山の日」を早くつくるべきだとの ご意見をいただき、一昨年、関東地方知事会に提案 したところ全都県が賛同し、関東地方知事会とし て、3年連続で国に要望を出している。
- ○その際話題になったが、山梨(8月8日)静岡(2月23日)千葉(里山の日5月18日)群馬(10月第一日曜日)他、岐阜、大阪、奈良など各県がバラバラに「山の日」を制定している。栃木では平成20年から元気な森づくり県民税が始まり、その年から10月16日を「元気な森づくりの日」としている。
- ○「山の日」については、国で「山の日」を決めて、 最初から祝日とするか、切り離して後から祝日に 制定するか、手法は色々あるが、先ずは全国統一の 「山の日」を制定すべきとして、県も、西川先生、 皆様ととともに取り組んでまいる。
- ○山にも川にも森にも樹にも神様がいる、八百万の神の中で我々は育ってきた。しかし自然に対する 畏敬の念は希薄化してきている。それが家族の崩壊や弱いものいじめに繋がっている。「山の日」を制定することは、我々の生き様を改めて見直すことに繋がる。ふるさとを大切にする。あるいは長幼の序についてもみんなが思いを馳せる。そして実践する。そういう人づくりの点においても、「山の日」は重要な役割を果たしてくれると思っていますので、皆様と制定にむけ頑張っていきたい。



●来賓挨拶【西川公也衆議院議員】

- ○本日は「山の日」を制定しようとスタートしていただいた。皆さんと同じ思いをもつ者として、お祝い申しあげる。私はTPPの対策委員長として忙しく国益を守ろうと頑張っている。
- ○「山の日」をつくろうと、議員連盟が立ち上がった。 国会議員は衆議院が 480 名、参議院が 242 名、総 勢 722 名でありますが、現在、議員連盟に入っの はまだ 86 名。早く 100 名を越えて、一大勢力とし てやっていきたいと思う。最初に一生懸命やって きたのは前自民党総裁、現法務大臣の谷垣禎一先 生。山岳会五団体の顧問をやりながら、一緒になっ て提唱してくれた。その時は 6 月の第一日曜との 意向だが、山岳連盟、林野庁、環境省、警察庁等大 勢が関係しており、多くの皆さんの話を聞きなが ら、これから決めていくことになっている。
- ○「山の日」制定の運動を一生懸命やっているのは、 大阪府、岐阜県、山梨県。今日からは栃木県も熱心 だと報告できるのが嬉しい。なかには「山の日」だ けでなく、「川の日」「森の日」にしようという話が、 全国 47 都道府県のなかにはある。早く「山の日」 に制定したいと思う。それで早く「山の日」制定の 国民会議を立ち上げたいと考えている。 それに は栃木県の今日お集まりの皆さん、学会の皆さん、 産業界の皆さんにも入っていただいて、議論を深 めてもらえればと思っている。
- ○日程としては、全くもめないでさっと法律になる 方法が唯一つだけある。それは事前に各党が協議 をして意見をまとめ、それを常任委員会の委員長 提案にする。この委員長提案だと質疑はないので、 それが即、法律となる。この方法で「山の日」の制 定をしたいと思う。だからまだ86名だが、早く100 名を越えて、一大勢力にして委員長提案で乗り切 りたい。今は、会長を大分県の衛藤征士郎衆議院議



員がやっているが、衛藤さんと話をして、できれば 今後1年を目途にやりたい。

- ○今まで国民の祝日に関しては、議論が非常に長くて結論が出なかった。「海の日」は最長の記録。ただ1月1日の元日から12月23日の天皇誕生日まで15の国民の祝日がある。「海の日」があって「山の日」がないんだという我々の考えからすれば、休日になる祝日にしたいと思っている。ただ内閣の方針では、15ある国民の祝日は増やさない。これは2年前決まっていますが、そこを乗り越えてやっていきたいと思う。
- ○山があるのは、農業面では多面的機能、空気をきれいに水もきれいにしていただく、ということで山の機能を大切に守りたい。山には信仰の対象になる山もあるし、レジャー、スポーツで登山をする人もいる。山登りが盛んになって遭難を増やさないようにということだが、一番遭難が多いのは、長野県。長野県の議員もいて集中攻撃を受けていたが、うちの山は楽しいから来るのだと言っていた。警察もそのへんを配慮した「山の日」を制定してということだった。
- ○今日こんなに大勢の皆さんが集まった。県民運動として「山の日」制定に向けて一緒に働かせていただければと思う。福田知事は知事会で色々発言をして、既にやっていただいている。山男に似合わない男前だが先頭になってこれからもやってくれるので、これからも手を取り合って一緒になって、1年くらいで目途がつくように頑張りたい。



●特別講演【船村徹『山は心のふるさと』】

- ○最初に「山の日をつくろう」と提唱されたきっかけについて話をされた。船村先生は、鳥羽一郎をはじめ多くの歌手に楽曲を提供し、歌手を育て世に送り出したが、作曲した作品の多くは海をテーマにしたものだった。
- ○海からほんの少し内陸に入れば山並みが広がる。 山があって海がある日本の自然の風景を考え、自 らが育った故郷の山と対峙しながら、「山をもっと 大切にしなければ。山の歌をつくるべきだ」と深く 思われ、「山の日をつくろう」と提唱するきっかけ となったと、経緯を話された。
- ○講演は、時に栃木弁を交えながら、先生の生い立 ち、山に対する熱い思いをユーモアたっぷりに話 していただいた。
- ○講演の途中で船村先
- ○最後に海や川、そし生の内弟子である大門弾様が 船村先生作曲の「故郷の山が見える」を熱唱され、 山の日制定に向けた本日の会場の雰囲気を大いに 盛り上げてくれた。て山も含めた自然を子孫に残 して行くため、「山の日」を一緒につくろうと、来 場者に呼びかけ講演を終了した。







●シンポジウム

【喜内敏夫コーディネーターがパネリストを紹介】

○萩原浩司様は日光出身で、日本山岳会「山の日」担当理事。「山の日」の取り組みの経緯と現状、全国の取り組みの紹介について報告を願いたい。市川貴大様はふるさと高原山を愛する集い実行委員会事務局長であり、県内の取り組みについて報告を願いたい。宇賀神知則様は現環境省自然環境局自然ふれあい推進室室長補佐で、前日光自然環境事務所長。自然環境への取り組みについて栃木の山の魅力、国立公園の魅力について報告を願いたい。森初芳様は足尾に緑を育てる会顧問であり、その活動を報告されたい。

【萩原浩司氏の報告】 【山の日制定にむけた組織設立の経緯と歴史】



定協議会を立ち上げて、2010 年 4 月から、「山の 日」をつくろうとスタートした。

○「山の日」関連報道によると、最初に「山の日」を 制定しようという話がでたのは、1961(昭和 36)年 のこと。当時は1956年にマナスル登頂があり、朝 日新聞では井上靖の「氷壁」の連載が始まるなど、 大変な山ブームの時代。その中で読売新聞の主催 の立山大集会というイベントがあった。この集会 で「山の日を制定しよう」という話しがでた。最初 に「山の日」の話題が具体的に上がったのは、この 日になろうかと思う。

- ○一方「海の日」は 1959 年に海に関係する五つの団体から声が上がった。法案を求める運動が始まったのがこの 2 年前。そして「海の日」ができたのが平成 7 年だから、制定までほぼ 36 年かかった。「山の日」を作ろうとする動きも、発想という点においては「海の日」に負けず 1961 年からのスタートということになる。しかしその後、しばらく「山の日」制定に関する話は表に出なかった。
- ○1991 年、日本アルパインガイド協会の提案で、10 月3日を登山の日としようという話がでた。10(と) 3(さん)を登山(とざん)にひっかけたわけだ。 私は山と渓谷社という出版社に勤めておりまして、 こういった資料も集め易い立場。しかし残念ながら10月3日は祝日ではなかったし、呼びかけの範 囲が登山ガイド中心だったので、涸沢とか八ヶ岳 といった有名山岳地での集中山行という活動にと どまり、現在も「登山の日」運動は継続しているが、 全国的な広がりには至っていない。
- ○2002 年は国連が提案する「国際山岳年」であった。 山をめぐる状況、問題点を考え、山の環境と人間が どのように関わりを持つべきか、世界的規模で行 動を起こそうとした年。それを受けて日本でも国 際山岳年日本委員会が組織され、山と人との関係 を考えるべく様々なテーマでフォーラムやシンポ ジウムなどのイベントが開催された。
- ○因みに「国際山の日」は 12 月 11 日と国連で制定されたが、年末であり、制定日について適切かどうかも含めて疑問視する声もあり、それに関連した運動も特に行われていなかった。この年のポスターに「日本に山の日を作ろう」と明記されたが、国際山岳年のイベントのなかで最も明解に「山の日」の制定を提唱したのが「富士山エコ・フォーラム」。富士山からのメッセージとして、山の魅力をより深く理解し、環境を守り、後世に伝えていくため、「山の日」を制定しようと提案された。
- ○2008 年下野新聞紙上に、船村徹先生による「山の日をつくろう」という記事が掲載されて話題を集めた。この記事は各方面に影響を及ぼし、日本山岳会の新会長になった尾上昇さんは、2009 年「山の日」制定プロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクトの一環として、他の山岳五団体に呼びかけ、2010年に「山の日制定協議会」が発足した。その意味で、船村先生が書かれた記事は、山岳五団体が集まって「山の日」制定協議会をつくるきっかけとなった価値ある発言である。これがきっかけで船村先生は日本山岳会にご入会され、年末の年次晩餐会で新入会員としてご挨拶をいただいた。こうして2010年4月、山岳五団体による「山の日制定協議会」が発足、今日に至る活動に繋がる。
- ○入り口で配ったリーフレットに協議会設立の趣旨

として「私達山を愛する山岳五団体は、国民の祝日としての山の日を提案します。山の日は、日々の生活と密接に関係する山に感謝し、美しく豊かな自然を守り、育てそして、次世代に引き継ぐことを、国民のすべてが明記する日」と提案、周知の運動を進めている。このリーフレットは山をもっと深く知るためのQ&A形式で、各10万部ずつ製作し、各地に配布している。



- ○制定協議会の次の運動として、国会議員への働きかけがある。「山の日」を祝日にするには法律(祝日法)の改正が必要となので、国会議員の理解と協力なくしては前に進まない。そこで2011年4月を目標に議員会館でパンフレットを配り協力を呼びかけようとしたが、3.11(東日本大震災)が起きてしまい、それどころではなくなってしまった。そこで議員への直接の呼びかけは止まってしまった。
- ○その一方で福田知事が中心となった関東知事会では「山の日の制定と祝日化を」との要望書を国へ提出した。現在も引き続いての動きである。
- ○2012 年には国際山岳年から 10 年が経ったことを 記念してシンポジウムが開かれ、10 年間に起きた 様々な出来事や山で起きた諸課題について報告さ れた。そして、今度は地方の対策として 10 月 3 日 に「山の日制定ネットワーク東京会議」が開かれ た。これはすでに全国各地に県や町でそれぞれ制 定した「山の日」があるにも拘わらず、横のつなが りが殆どなかったので、一堂に会してそれぞれの 活動例を報告し、情報交換をしようと東京で開か れた。この会議は大変重要な意味を持つことにな り、谷垣禎一、丸川珠代両議員をはじめ阿部守一長 野県知事も出席され、それぞれの立場から今後の 「山の日」運動への大きな弾みとなった。
- ○そして今年(2013 年)の 4 月 10 日「山の日を定め 祝日とする」ことを目的とした国会議員による超 党派「山の日」制定議員連盟が発足。7 つの党の8 人が世話人になり、祝日法の改正を視野に入れた「山の日」運動が本格化した。超党派をうたうように、最高顧問に谷垣さん、会長に衛藤征士郎さん、

副会長に各党から代表者がそれぞれ入った。4月10日の設立以降、かなり急ピッチで議案のまとめに向けて動いている。つい2日前(5月31日)にも第五回総会が開かれた。今のところ勉強会で、ほぼ毎週のように各省庁から山に対する取り組み、現状について報告を受けている。いずれにしても議員連盟の目的は、「本会は山の日を制定し、祝日とすることを目的とする」と、会則の第二条に明記されている。衛藤会長の発言によると、来年の通常国会に議案を提出できるように急ピッチで進めたいとあり、話はかなり具体化の意味を帯びてきた。いつにするか、他の国民の祝日とのバランスをどう整理するかなど、解決すべき問題はいくつもあるが、とにかく来年に向けて頑張ると言っていただいた。

【他県の山の日の事業】

○現在、何らかの形で、「山の日」の記念日を制定している自治体は13府県ある。市川さんが全47都道府県に「山の日」の制定についてアンケートをされたが、その資料に基づいてまとめたものがこちら。(下図参照)。「山の日」を制定している府県(12件)をはじめ、森の日として制定(14件)、山や森の期間として制定(10件)、まったくなし(16件)など様々。栃木は森づくりに取り組む活動として「山や森の期間を設けている自治体」の分類に入る。現在はここ栃木と長野が、「山の日」を独自に制定しようと動いているのが現状。

○活動の内容を紹介。2月23日は、富士山の日として静岡、5月18日は里山の日で千葉、6月第一日曜日は、ひろしま山の日で2002年開始。特に広島県は非常に内容の濃い活動をしている。7月第三月曜日、この日は「海の日」でありますが、奈良県はこの日を「奈良県山の日、川の日」としている。8月8日はやまなし山の日、ぎふ山の日、10月第一日曜日はぐんま山の日(育樹祭を行った日を記念日とした)、10月7日紀州山の日(日にちが変わるかもしれない)、11月第二土曜日はおおさか山の日、大阪は大都会ですが、近くに山があり取り組みは盛ん。11月11日は、四国山の日(四国4県で統一)。各県ともポスターをつくり県民の理解を求め、各種のイベントを通じて山と触れ合い考える記念日として、活動をされているのが現状。

【山梨、群馬、広島の事例】

○このうち三県の事例を紹介。やまなし「山の日」は、 平成9(1997)年に制定された。コンセプトは、「山に 親しむ、山に学ぶ、山と生きる」の三つ。この三つの コンセプトを具現化したイベントとして、記念山行、 シンポジウムや写真コンクール、チャレンジ登山な どを実施。群馬は、育樹祭を記念して平成22(2010) 年にぐんま「山の日」を制定し、21世紀の森でイベ ントを行っている。特に大きなイベントとしては、 「森のフェスティバル」として、大規模な音楽祭を開 いている。



- ○広島山の日(6月第一日曜日)は今年で12回になる が、県内の各市町を結んだネットワーク型のイベ ントを数多く開催して、この事業展開は、栃木が独 自に「山の日」のイベントを行う際に非常に参考に なると思う。今年もまさに今日、開催されているの ですが、「山に入り、学び、楽しむ」きっかけづく りとして、各地でイベントを開催している。昨年の 尾道の会場には、広島県知事も来場され、10市町 11 会場だった昨年から、今年は11 市町12 会場に 増え、1万人を集めること目標としている。将来の 構想として10年後には、県人口の1%2万人の動 員を目指すとのこと。民間からは 400 団体の加入 を呼びかけ、非常に効率よく規模を拡大している。 もともとは酒造組合が中心になって「森を守る」た めに始めた運動。一升瓶1本ごとに1円寄付して 運動資金として、その資金をもとに事業を開始。や がて県全体を巻き込み、現在60の企業から資金を 集めているとのこと。情報の収集にも大変積極的 で、尾道のシンポジウムでは各県の「山の日」運動 の代表者を招いてネットワーク会議を開催した。 私どもが開いた東京会議は、まさにその手法を踏 襲したものであり、各地から情報を集め、ネットワ ークづくりを強化するという手法については、栃 木県も見習う必要があると思う。
- 【山の日は、いつがいいか?】
- ○問題は、「山の日は、いつが、いいか?」日本山岳 会では30の支部に対してアンケートを取った。約 8割の支部が「今日(6月第一日曜日)」というこ とでした。その理由は第一に梅雨入りを控え、天候 が安定しているぎりぎりの日がこのあたりだとい うこと。実際にこの日は全国各地で山開きが行わ れていて、上高地でもウエストン祭が行われてい るが、ここ十数年雨に降られたことがない。第二の 理由はこの季節は新緑に囲まれ、山が一年でもっ とも生き生きとした姿を見せる時期であるという こと。緑が萌え残雪輝き花々が咲き始め、山の魅力 を知ってもらうには良い時期であるということ。 さらに第三の理由として祝日のバランスを考える と6月か8月しかないということ。しかし8月に は一般的にお盆休みがあり、こどもの日と海の日 の間が70日間あって、最も長く祝日のない日が続 く 6 月に祝日があってもいいのではないか、とい う意見が多く見かけられた。
- ○これらの理由を総合して「山の日制定連絡協議会」 の意見としても、6月の第一日曜、つまり今日この 日が祝日としてふさわしいのではないか、と、提案 している。個人的な意見を述べると、今日が祝日で

- あれば祝日法で日曜に重なった祝日は次の日を休みとできるので、このあとあわてて東京に帰ることなく実家でゆっくりと過ごせていいな、と、このように思う。
- ○栃木県に「山の日」を。これは県独自の制定でも、 全国的な動きを応援すると言う形でも構わない。 少なくとも県民すべてが山に思いを馳せ、山を守っていこうとする意識を持つ機会ができるという ことだけでも、記念日としての「山の日」をつくる 意義があるものと思う。今日をスタートとして、今 後も「山の日」をつくる運動にご協力いただきたい と思う。



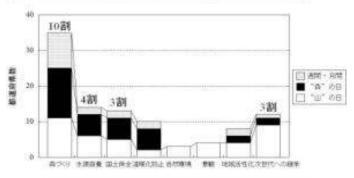
【市川貴大氏の報告】 【山の日に関する全国調査と高原山を愛する集い】

○先週、「ふるさと高原山を愛する集い」を開き、300



○塩谷町で「ふるさと高原山を愛する集い」をやろうかと集まったとき、参加者の中から「山の日」の意味が分からないと言う意見があった。実際、山は登山もあれば山林もあったりする。里山では、もともと春に山の神が平地に下りてきて、田の神となって秋にまた山に戻る。高原山でも宮司が中心となり、山開きを実施している。

"山"や"森"に関する記念日や期間の趣旨内容



表づくりは"山"の日、"森"の日、"山"や"森"の期間の ほとんどで示されている。 "山"の日については趣旨内容が多い傾向。

○2013年、「山の日」の全国調査を行った。和歌山で は「紀州山の日」があったが、長期間実施されて定 着したということで終わってしまった。現在は1 1府県で山の日が制定されている。山の日もあれ ば森の日もある。栃木では「元気な森づくりの日」 がある。特徴的な記念日の例として、九州では全体 で「九州森林の日」、四国は四県で「四国山の日」 が制定されている。記念日は10月、11月が多い傾 向にある。「山の日」は、全国で毎年一つか二つ制 定される傾向にある。制定の趣旨は、「山の日」は 「森の日」と違い、多様な意味がこめられている。 特に注目する点は、森づくりというのは当然だが、 次世代への継承が「山の日」に謳われているという こと。一方「森の日」は森づくりとか多面的機能を 趣旨としている。イベントは、式典や啓発普及等。 森づくり事業は県が主体となってやっているが、 「山の日」は協議会形式で取り組まれているとこ ろが多い。特に「山の日」では多様なニーズに対応 するため、協議会形式を採っていると考えられる。 関東はもちろん、中部地方知事会でも長野県が中 心となり、「山の日をやりましょう」ということに なっている。また海なし県も「山の日」の制定を要

○次にふるさと高原山を愛する集い実行委員会の設立経緯。2011年の1月に高原山の自然を守る会や、塩谷町写真サークル「あそぼ」、花の会塩谷支部、船村徹ふるさと会が一堂に会した新春懇談会があった。そのなかで船村徹先生から「山と海は一体だ、山の日をつくろう」と言う話があった。しかし当時は何をやっていいのかわからなかった。東日本大震災後、全国の状況を調査したり宇都宮大学で里山コンサートが開催されて、「山の日」について再考し集い開催のきっかけとなった。全国の調査をとりまとめたところ、ひろしま「山の日」から、来てくれと話があった。「山の日ネットワーク尾道

望している。

会議」では、ひろしま「山の日」のみならず他県の情報もいただき、このまま情報提供しないのはもったいないと思い準備委員会を開催した。また、「山の日ネットワーク東京会議」で船村先生の特別講演があった。さらにイベント開催に向け、盛り上がりを見ることとなり、準備委員会に町役場有志にも参加していただき、紆余曲折はあったが実行委員会を組織して、集いの開催をした。塩谷町花の祭典や、高原山山開きでPRを重ね、先週5月26日に集いを開催した。塩谷高校が昨年度で廃校となったので、その体育館にて開催した。参加者は600名を超えた。アンケート調査の結果も良かったという評価が大半。集いの内容は、船村先生の講話と対談、各種情報提供、高原山のメッセージ、しお

やの高原山 10 景の選定。特に、高校生、中学生の

○くまの木里山応援団として活動もしており、廃校の木造校舎裏山の荒れ気味だった散策路の整備や道標の設置、広葉樹の植樹や下刈り、枝打ち体験などを実施している。子ども達の枝打ち体験では、子供たちが目を輝かせながら参加してくれた。高原山の散策路は宮司が一人でササ刈りをしていた。私も参加してやってみたが、なかなか大変であることを実感した。高齢化などにより地元の方の力だけでは、いずれできなくなる場面が増えてくると思う。「山の日」の制定を契機に、保全活動に参加できる人を発掘し、活動が継続できるようになればいいと思っている。

【宇賀神智則氏の報告】

スピーチには心打たれた。

【自然的、文化的な価値のある日光の紹介】

- ○環境省の宇賀神です。先週まで日光自然環境事務 所長をしていた。日光、那須、甲子、尾瀬が事務所 の所掌範囲。
- ○山は生物多様性上、非常に重要な地域。県内には、日光、尾瀬と二つの国立公園がある。 事務所では、日本を代表する素晴らしい景観を、生物を守りながら皆さんに利用していただくということを行っ



ている。今回はいろは坂から西の奥日光で色々な活動をしたときの資料に基づき、話をする。山には色々な資源があり、価値があり、色々な人が関っていることを知っていただきたい。色々な人が、「山

の日」制定の原動力になる。他の人々も巻き込んで 国に働きかけ、「山の日」が制定できればいいと思 う。

- ○国立公園は自然公園法で定められているす。目的は優れた風景地を保護すること。守られている地域を利用すること。山登りも含まれる。国立公園はわが国の景観を代表する傑出した風景があるところで、環境大臣が指定。全国で30箇所、国土の5.5%が指定されている。三陸復興国立公園については、あらためて青森県の一部を含め、これからの震災復興の中心的な地域になる。日光国立公園は1934年(昭和9年)指定され、来年が指定80周年になる。「山の日」制定にむけた活動が記念の年と上手くリンクすればいいと思う。平成22年は1,770万人が日光国立公園に来た。日光は首都圏から近く、簡単に来ることができ、豊かな自然も残っている。
- ○日光には色々な価値があるということを報告する。 ちなみに私は祖父が栃木県の出身であるなど栃木 県とは縁がある。私の住んでいる足立区は周りに 山が見え、小学校の校歌に富士山、秩父、筑波が謳 われている。これが山に関わる最初の出会い。日光 は江戸時代の文化遺産と自然の遺産とが調和し、 人を楽しませ文化を育んで来た。江戸幕府の聖地 でもあった。昭和 9 年に国立公園の指定を受けた が、遡ること20年前、当時の帝国議会に請願した。 日光は修験の場でもある。昨年は勝道上人の業績 をたたえるイベント(開山 1230年)もあった。日光 は夏涼しく、明治以降、避暑地として外国の方など 来られ、中禅寺湖は"夏は外務省が移る"とも言わ れた。当時のイタリア大使館別荘が復元され、また イギリス大使館別荘も復元される予定であり、当 時の賑わいが戻ってくるようだ。中禅寺湖には魚 が棲んでいなかったが、グラバー(長崎のグラバー 邸で有名な) が湯川にカワマスを放すなどして魚 を増やし、外国人や財閥の方の間では釣りも盛ん に行われ社交場となる山荘もあった。

産業も盛んで、山王峠の先、西沢金山では、金の採掘が行われていた。一方足尾銅山に電力を供給するため、華厳の滝の水を使った発電も細尾で行い、これは、現在も残っている。男体山では、大薙には土石流から下流の住民を守るため、砂防堰堤工事が行われている。稲荷川の堰堤は大正期に作られたもので、文化財的価値がある。戦場ヶ原は、国道の東側が戦後開拓され、大根が有名。日光では、珍しい動植物を、身近に見ることができる。高山植物では武田久吉先生や牧野富太郎先生などが、日光

や尾瀬で植物の調査を行った。こうした調査のな かで、シラネアオイ、ニッコウキスゲ、コウシンソ ウなど日光で発見された植物に日光の地名が付い た植物が色々ある。ただ課題も多い。戦場ヶ原の湿 原の保全は力をいれてやってきた。シカから自然 を守るため周囲 17km の侵入防止柵を整備し、シカ 対策では、群馬、栃木、福島三県の連携でミーティ ング等をやっている。オオハンゴンソウに関して は、ボランティアの方々が取り組み、30年かけ保 護上重要な地域では、ほぼ根絶できた。こうした成 果を上げた取り組みは、他にないと思っている。中 禅寺湖にブラックバス (コクチバス) が入ってしま ったが、地元の漁協の取組によりこれも取り尽く した。国立公園の利用の推進も仕事の一つ。湯元に ビジターセンターを作り、戦場ヶ原では毎年2億 円かけ木道を整備している。一方で、中禅寺湖で帆 付き船の再現などのイベントも行った。残念なが ら、昨年10月、戦場ヶ原でクマによる人身事故が あった。それらにも対応しながら、多くの方に楽し んでいただくため努力している。自然を守りなが ら、多くの人に来ていただくようにしたいと思う。 「山の日」制定には、多くの方が参加し、実現して ほしいと思う。

日光国立公園



- 日本で最初に指定され た国立公園の一つ(昭 和9年)
- 面積約11.5万ha(日光、 奥鬼怒、那須、甲子、 塩原、鬼怒川地域)
 - 平成19年に尾羽地域約2.5万 haが分離し、尾美国立公園が 総会
- 年間利用者は1,770万 人(平成22年データ)



【森初芳氏の報告】 【会の活動紹介】

○足尾銅山の煙害でハゲ山に なった足尾町松木地区の関 化事業は、国や県などの関 係機関により 100 年前かり ながらの緑化事業であり、 樹木は枯れてしまった。閉 山後、足尾に緑を渡良瀬に 清流をと願う人の流れが緑を 流し、1996 年「足尾に緑を 育てる会」が生まれた。輪



(和)の中心に作家故立松和平さんもいた。

- ○1996 年 5 月、第一回の植樹デーを開催、160 名が参加、100 本の苗木を植えた。以来毎年 4 月最終土・日に春の植樹デーを開催。今年第 18 回は、二日間で 1350 人が参加、苗木 5800 本を植えた。小学生の植樹活動なども含めると、これまでに延べ約 12 万人が約 16 万本の苗木を植えた。「足尾の山に100 万本の木を植えよう」と呼びかけているが、これからが大変。「足尾に緑を育てる会」では、今後とも、気長に、地道に、植樹活動を続けていこうと考えている。会は9年前、NPO 法人になった。。法人になってよかったことは、寄付が増えたことで、工具や機械も購入でき、緑化活動の成果が上がっている。
- ○会の顧問であった故立松和平氏は、「心に木を植えよう」というメッセージを残した。植樹デーの会を重ねるうちにわかってきたことは、木を植えるということは手にした苗木を植えるだけでなく、自分の心にも木を植えるということ。「山の日」ができたら、自然界に気を馳せ、心に木を植える人が増えると思う。私の個人的な夢だが、「山の日」ができたら、その記念に立松和平さんの提唱した「古事の森」を作りたい。400年木を伐らない森。この木は、神社仏閣、橋などの建て替えの時に使える。立松さんが「古事の森」を最初につくったのは京都の鞍馬で、次が茨城。彼は志半ばで亡くなりましが、栃木県にもできたら嬉しいと思う。



第3回役員会 • 事業委員会

日 時:2013年6月2日(土)16:30~17:30

場 所:コンセーレ内タイムズスクエア

参加者:役員17名中13名

○支部総会、親子登山教室、支部長会議、JAC 総会等の報告があった。第6回夏の山岳映画の夕べ、 日光清掃登山、夏山山行、那須岳クリーン

キャン

ペーン、秋山山行、ヒマラヤの集い、秋季 講演会

第4回役員会•事業委員会

日 時:2013年6月29日(土)14:00~15:00

場 所:コンセーレ内タイムズスクエア

参加者:役員17名中8名

○支部長会議、親子登山教室準備の報告があった。 第6回夏の山岳映画の夕べの役割分担、日光清掃 登山、夏山山行、那須岳クリーンキャンペーン、ヒ マラヤの集い、秋山山行、秋季講演会等について協 議した。

第6回夏の山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時:2013年6月29日(土)15:00~17:00

場 所:宇都宮市『コンセーレ』大ホール

映 画:『エベレスト征服』(1953 年イギリス隊)

『南壁に燃ゆ』(明治大学山岳部アンナプルナ登山隊 2003)

講 演:山本篤氏(日本山岳ガイド協会認定登攀 ガイド、国立登山研修所講師)

- ○恒例となった「第6回夏の山岳映画の夕べ」が、講師の山本篤氏をお招きして開催された。参加者は、 支部会員14名、一般41名であった。
- ○まず山本篤氏の講演を伺い、その後映画会となる。 國學院久我山高校に入りワンダーフォーゲル部に 入部。たまたま手にとった『処女峰アンナプルナ』 を見て、8000m峰を登ることが自分の生活の目的 となった。そのためには大学山岳部に入って鍛え て貰うのが近道であり、明大山岳部で登山の基礎 から応用まで学ぶことができた。
- ○初めての海外遠征であったヒマラヤ・ラカポシ遠征(1987)は力及ばず登れなかった。1988年のチョモランマ三国登山隊は、ボンベを運んで8000m以上まで3回行くことができた。その後、登山隊で連れて行ってもらって、8000m峰2座(シシャパンマとチョーオユー)に登ることができた。1989年には

エベレストに登頂。高校で8000mをめざしてから10年が経過。日本人では27番目であった。

- ○1995 年の JAC マカルー遠征隊にも参加。その後自 分自身が登山隊を企画して行きたいと思い、JAC 学 生部の K2 登山隊のリーダーとして K2 に遠征。12 人の登頂者を出したが、確執が生じてしまい、登山 のリーダーとしてどうあるべきか、心に引っかか るものができた。
- ○その後、明治大学山岳部のOBで 8000m峰 14 座を全部登ろうという企画をたて、2003 年には登山 隊の隊長としてアンナプルナに遠征。前の苦い経 験をいかすことができた。自分自身の役割をしっかりこなすことがチームワークにつながり、また それが互いの信頼関係を固いものにして成功に結 実することが実感された。
- ○現代は個が強調されるが、人間の大きな美徳は自 分の勝手さを抑えて協調していくことであり、登 山を通してその大切さを知ることができた。
- ○その後、明治大学山岳部アンナプルナ登山隊 2003 の記録映画『南壁に燃ゆ』を上映する。特に印象的だったのは、松本隊員を下におろす際の隊長としての苦渋の決断の場面であり、緊張感・緊迫感をひしひしと感じられる映画であった。
- ○質疑のあと、1953年のイギリス隊の『エベレスト 征服』を上映する。今年はエベレスト初登頂から 60年の節目であり、タイムリーな映画に参加者も 釘付けになっていた。
- ○講演会後に、タ イムズスクエア にて講師の山本 篤さんを囲んで ビアパーティを 開催した。参 オは15名。





日光清掃登山(栃木県岳連との共催) 【山の日制定プロジェクト】

日 時:2013年7月6日(土)、7月7日(日)

場所:日光湯元キャンプ場、前白根山・五色山

参加者:前夜祭···会員3名、岳連等参加者20名 清掃登山···会員4名、一般7名

【全体では 200 名超】

行動概要:7/6(土)17:00~講演会、前夜祭 7/7(日)開会式 7:30、湯元発 8:00···外山尾根 取付 8:40···前白根山 11:30···五色山 12:30

…湯元 15:30、解散

●6日(日光の自然を考える集い、前夜祭)

○梅雨明け宣言発表の当日、「日光の自然を考えるつどい」を湯元キャンプ場で開催。講演会の講師はの鈴木文益氏(日光自然博物館)。日光の植生の背景にある氷河期と火山活動の歴史や自然保護の多面的な考え方、さらには生物多様性についてなど、示唆に富んだ内容であった。「見える自然」を守るためには「見えない自然」を守ることが必要とする内容は、参加されたみなさんに共感を抱かせたものとななった。その後、栃木県山岳連盟自然保護委員会主催の前夜祭となる。会場のキャンプ場の炊事場では、参加者がそれぞれ料理や飲み物が持ち寄り、各団体の垣根を越えてなごやかに交流が図られた。

●7日(清掃登山:前白根山・五色山コース)

- ○7:30 より湯元のビジターセンター前広場で開会行事。県山岳連盟喜内会長の挨拶、共催団体として日本山岳会栃木支部からは麦倉会員が山の制定プロジェクトを説明する挨拶をする。
- ○開会行事終了後、各会に分かれての活動となり、本 支部は、昨年と同様に前白根山と五色山を経由す るコースに向けて、会員4名と一般参加者7名の 11名のパーティーで湯元を出発。梅雨明けした ものの、前日の晴天から曇天の空模様の中、一行は 湯元スキー場を空き缶などを回収しながらつめ て、外山尾根の取り付きで休憩。そこから急登を気 合いを入れて登る。登山道脇には、コイワカガミや シャクナゲが咲き、稜線に出ると今年もミネザク ラが迎えてくれ、急登の疲れを癒してくれる。。最 近の登山者のマナー向上を実感できるくらい登山 道のゴミは少なく、回収するゴミも本当に僅か。 天狗平を越えて 11:30 前白根山山頂着。山頂付近 にはコマクサが今が盛りと咲いていたが、その美 しさとは別に、本来無いはずの所に可憐に咲くそ の姿に複雑なものを感じた。山頂は、ガスがかかり 風も強いので早々に五色山までの稜線を進む。本

来であればこのから白根山の勇姿や五色沼の美しさなどが楽しめが、当日は残念ながら白い景色を進むこととなる。五色山手前では、他団体を伴った小島会員とすれ違う。五色山を少し下ったところで風を避けて昼食休憩入ると、次第に雲間に晴れ間が出て、足下に湯元の景色や男体山等の山並みが見えてきた。その後五色山山頂に戻ると、白根山頂は雲がかかっていたが五色沼は綺麗に見えた。十分にその景色を楽しんだ後下山となり、国境平を経由して一気に中ッ曽根尾根を下って行く。下りの最後には、ついに雨が降り始めてしまい雨具をつけての下山となった。

○上り下りの急斜面の苦労もあったが、ゴミを回収 して全員無事に 15:30 湯元帰着。回収したゴミを 分別して出して、参加者特典である温泉入浴をし て疲れと汗を流し、雨で濡れた身体を温めて、清掃 登山の全日程を終了した。

親子登山教室

日 時:2013年8月3日(土)~4日(日)

場 所:学習院日光光徳小屋、山王峠、太郎山参加者:親子6組16名、講師2名、支部7名行動概要:

 $8/3(\pm)$:

光徳P(受付)9:30 開会式 9:55, 読図·コンパズ 使用法の講義 10:15~45···光徳園地に移動、昼 食、ハイキングに出発 11:20···山王峠 12:50···光 徳小屋 14:20···夕べの集い 15:00~15:40···夕食 18:00···星座観測会 20:00···就寝 22:00 8/4(日)

起床 5:00…朝食 6:10、出発 7:00=志津登山口 7:20、講話 7:20~40、出発 7:55…男体山頂 10:35 昼食、同発 11:25…志津登山口 13:50=光徳 Pで 閉会式 14:30~50、その後解散 14:50

○昨年の第1回に続いて第2回の親子登山教室を実施。テーマは「学習院の小屋に泊まって男体山の頂上を目指そう」、講師として栃木県立博物館から富永孝昭氏と贄田統亜学習院山桜会長を招いた。

【第1日:8月3日(土)】

○光徳駐車場で受付。9:55より開会行事を行い、その後地図の読み方、コンパスの使用方法などの講習を行い、本日のハイキングコース及び明日の男体山登山コースを地図で確認した。初めて地図やコンパスを使用する親子もあり興味深く真剣に取り組んでいた。10:45光徳園地に移動し昼食。準備体操後、11:20、小学1年生の親子を先頭に低学年から隊列を組み山王峠ハイキングに出発。途中富永講師からキノコや植物、ダケカンバ等の講話を

受けながら、2回の小休止で12:50 山王峠着。途中たくさんの林間学校の小中学生とすれ違いお互いに元気にあいさつをかわした。山王峠ハイキングは明日の男体山登山のリハーサルを兼ねた山行だったが、全員元気に学習院日光光徳小屋に到着することができ、明日の男体山登山も全員登頂することができると確信した。

- ○14:20 光徳小屋到着後荷物の整理等をし、15:00 から夕べの集いを行う。昨年も参加した最年長の東君が参加の抱負と明日の男体山登山の意気込みを述べ、スタッフからは小屋使用上の注意や今後の日程等の説明をした。16:00 から子どもとスタッフが夕食の準備を、保護者はミーティングを行う。子どもたちは、保護者の心配をよそに嬉々として夕食の準備を行っていた。またミーティングを通し保護者同士がお互いに親密になり、子どもの教育やら登山についての話で盛り上がった。
- ○18:00 夕食。夕食後に明日の昼食のおにぎりつくりをした。20:00 から星座の観測会を行ったが、雲がかかって空のほんの少しの部分しか見ることができなかったが、子どもたちは講師の星に関する講話を熱心に聞いていた。子どもたちはすぐに友達になり、自由時間には小屋の前の小川で遊んだり、広場で遊んだり、セミの抜け殻を見つけたり、小屋でトランプをしたりと自然の中で楽しい時間を過ごした。22:00 には全員就寝。

【第2日:8月4日(日)】

○起床5:00。5:30より子どもはスタッフと朝食準備、 保護者は部屋の掃除と出発準備。朝食後本日の行動 予定を確認、小屋の前で記念写真を撮って5台の車 で 7:00 出発、志津登山口 7:20 着。スタッフの車を 駐車場まで回送する間、富永講師が男体山の自然や 植物の講話する。スタッフ合流後、準備体操を行い、 7:55 全員元気に男体山に向けて出発。昨日と同様植 物観察・講師の講話を聴きながら登る。途中3回小休 止をし 10:35 全員元気に男体山 (2486m) 登頂。記 念撮影後、昼食(大休止)をとる。ガスが上がってきて 男体山からの展望が良くなかったのは残念だったが、 昨年登った太郎山・大真名子山を眺めることができ た。男体山登拝大祭期間中の日曜日ということもあ り沢山の登山者で混み合っていた。11:25 点呼の後下 山開始、途中2回の小休止の後、志津登山口着13:50。 ここからスタッフの車を回送するまで林道を下る。 志津登山口到着と同時ににわか雨に会ったが、林道 の途中で車に分乗する頃には雨も上がり、光徳駐車 場着 14:30。光徳駐車場にて閉会式を行い、14:50 解 散した。

○今回も天気に恵まれ、予定したプログラムを全て実施することができた。『日光の美しく雄大な自然に触れながら、親子の絆を深め、他人との協働と男体山登山による自然体験を通して、心身ともに逞しく自立する青少年の人格育成の一助とする。』という親子登山教室の目的を十二分に達成することができたものと確信している。子どもたちが嬉々として夕食や朝食の準備をする姿、男体山山頂での元気いっぱいの笑みを浮かべた姿を見て、スタッフ一同準備の苦労が吹き飛び、親子登山教室を実施して本当に良かったと実感している。子供たちの元気な姿がある限り、次年度以降もこの事業を継続していきたいと思っている。





親子登山教室チラシ(配布用)

登山中植物やキノコの観察。(クルマユリとキノコの観察)(2013.8。



山王峠ハイキング 出発 (光徳から登 山道入り口にて) (2013.8.3)



そろっていただき ます。) (2013.8。

> 学習院日光光徳小屋 にて参加者スタッフ 記念撮影 (2013.8.4)



夏山山行 • 懇親会

日 時:2013年8月24日(土)~25日(日)

場 所:鬼怒沼/鬼怒沼山、奥鬼怒温泉郷 加仁湯

参加者:会員など男10名、女2名の計12名

行動概要: 8/24(土):

○加仁湯直行組(7名)

山野井、中村、森、関根、鈴木、坂口、前田 F 東武鬼怒川温泉駅 12:00=女夫淵 P13:00······ 加仁湯 15:30

- 〇鬼怒沼山登山組(3名)…渡邉、山本、石澤 東武鬼怒川公園駅 7:40=女夫淵 P9:00=加仁湯 9:50、同発 10:05…鬼怒沼 12:55…避難小屋 13:00… 鬼怒沼山 13:50…加仁湯 16:10
- 〇高原峠よりみち組(2名)…上田、藤田礼子 鶏頂山中腹の開拓地·高原峠散策=女夫淵 P 14:30 =加仁湯
- 8/25(日):朝食7:00
- 〇鬼怒沼山行(9名)

山野井、中村、森、関根、鈴木、坂口、前田F、上田、藤田礼子(渡邉、山本、石澤は直接帰宅)

加仁湯 8:00···鬼怒沼 11:30~12:00···加仁湯 15:15 ~16:00=女夫淵 16:30 解散=鬼怒川温泉駅 17:30

●2007(平成 19)年の栃木支部創立以来恒例の加仁 湯・鬼怒沼夏山山行は回を重ね、今年も山野井支部 長を頭に12名が参加した(ちょっと少なかったか な)。昨年の様な雨もなく、温泉と山を心行くまで 楽しむことができた。ただ例年との違いに驚いた のが、今年2月25日の震度5強の地震の爪痕だ。 一般車両駐車場がある女夫淵の温泉ホテルはお湯 が出なくなり廃業、解体中であった。女夫淵から加 仁湯~日光沢への沢沿いの道も斜面が崩れて所々 迂回し、工事用の車両が入っていた。特に変わりな い加仁湯に着いたときには、ほっとした。

●8/24(土)

【加仁湯直行組】〇12:00前に東武鬼怒川温泉駅に山野井支部長、中村、森、関根会員が集合。前田Fの車で女夫淵へ。女夫淵P13:00。鈴木車で来た坂口会員と合流。坂口会員はマイクロバスで加仁湯へ。山野井、中村、森、関根は14:00の集合時間には早いが徒歩で加仁湯に向かって出発。14:00藤田から電話があり、高原峠からの移動が遅れて、集合時間に間に合わないとのこと。後からマイクロで加仁湯に向かってもらうことにして、鈴木と前田Fは支部長一行を追っかけ。15:00八丁ノ湯で休息中の一行と合流、一息入れて加仁湯着15:30。



【鬼怒沼山登山組】○6:00 祖母井バス停の駐車場に 山本・石澤が集合し、石澤車で出発。途中塩谷町の 道の駅で休憩、鬼怒川公園駅着7:40。7:55 着の東 武線で渡邉が到着、山本・石澤と合流。8:00 石澤 車で女夫渕温泉向かう。女夫渕温泉駐車場着9:00。 加仁湯に電話し送迎バスをお願いする。送迎バス 着9:20、客は我々3人だけであった。加仁湯到着 9:50。不要な荷物をデポし、鬼怒沼山出発の準備。 昨日は雨だったそうだが、雲が低いものの晴れ間 も見える天気。加仁湯発10:05。日光沢温泉までは、 道路工事中。沢沿いの道は土砂崩れがあったりし て倒木も多く荒れていた。途中2度の小休止で鬼 怒沼着 12:55。昨日の雨のせいか鬼怒沼は水が多く 素晴らしい景観である。避難小屋着13:00、昼食を とる。ここから下山する山本と別れ、渡邉・石澤は 避難小屋にザックをデポ、13:20 鬼怒沼山に向かう。 思ったよりも距離があり鬼怒沼山(2140.8m)着 13:50。小休止後 13:55 発、避難小屋着 14:20。す ぐに下山する。オソオソロシの滝展望台で小休止。 ここまでは雨のため登山道に水が流れていて歩き にくかった。16:00 日光沢温泉の手前で山本氏と合 流、今宵の宿である加仁湯着 16:10。加仁湯にてす でに到着していた山野井支部長他今回参加のメン バーと合流。



【高原峠よりみち組】○本当ならば富士見峠へ行く はずであったが、私(上田)の体調が悪く富士見峠 は後日となり、鶏頂山中腹の開拓地・高原峠へ車で 向かった。日塩道路のちょうど中程になるか、ここ を入ると開拓地になりそうと言う道路を左に入っ ていくと、左側に高原宿の石仏があり、左一帯は人 家がある。もちろん現在も住んでいる、車もある、 犬もいる、ここの冬の寒さをどう凌いだのだろう と思ってしまった。その中を進んでいくのは、何も 悪いことをしているわけではないのに、闖入者、も し誰かそこにいたら、「ちょっと入ってもいいです か」と聞きたくなる。そんな雰囲気のところだっ た。藪の中にキツリフネソウが静かに揺れていた。 その道路の反対側に冷たくこけむした大きな石灯 籠があった。字はむろん読めなかった。 石仏の道 をさらに奥に進む、多分ここら辺が高原峠であろ う…とすると右側に石碑が二つたっている。開け た台地にビニールハウスがいくつもあり、新建材 の家並み、イチゴの苗、小松菜(?)のような苗が 規則正しく並んでいた。戦後中国、満州からの引き 上げ者たちの苦労のたまもので、荒地がこれだけ 使えるようになったのではないかと思った。さら に進むと、左側に「法華題目塔」が立ち、「左、あ いづ、右、もと湯」の道しるべがたっていた、高原 山の中腹にはスキー場が見え、シーズンにはゲレ ンデのスピーカーここまで届き、その賑やかな音 が繁栄を喜ぶか、騒音と解釈するか、住民の声はい かがなものかと想像した。さらに進むと「きぬがわ 高原カントリークラブ」に入ってしまい、Uターン してもと来た道を女夫淵温泉へ向かった。一番は じめに出会ったお蕎麦屋さんによって、お蕎麦を すする。もうすでに 13:40 を過ぎていた。女夫淵 着14:30、楽ちんコースで加仁湯に向かう。昨年宿 泊した女夫淵温泉は今年2月の地震で被害を受け、 営業中止で工事中であった。いいときに泊まった と思う。

【夜のお楽しみ懇親会…藤田記】〇ここ数年夏山の最後は、栃木支部夏山山行に参加させて頂く事を前提に計画を立てるようになった。今回、上田のご厚意に甘え、高原峠に寄り道してからの加仁湯入りとなった。我々は宿のバスでみなさんより先に到着。他の客ともかち合わずゆっくり露天風呂を楽しんで食事の会場へと出向いた。今年は例年に比べ参加人数が少なく、全員顔を向き合っての懇親会となった。支部長ご挨拶、宿手作りの果実酒で乾杯の後は、しばし歓談タイム。食事の終わりのころ、進行役の前田Fから今日は少人数なので時間制限なしの了解で端から近況報告が始まる。それにしても皆さん、今年の猛暑にめげず相変わら

ずの行動力にさすが山岳会だと感心する。 2次会は幹事部屋に移動、それぞれリラックス態勢で追加のアルコールをいただく。翌日の行動を考え今回は早めのお開き。上田さんと 2人で部屋に戻り、トイレに入ろうとノブを回すがロックがかかっていて開かない。ん??念のためノックをするとトントンとノックが返ってきた。キャーあわてて部屋を出て隣の渡邉にSOS。「だれも居るわけないだろ」と鍵穴に部屋鍵突っ込みロックを外すと…中はだーれも居ませんでした。ノックの音も外の音が反響したようだが…あのスペースに二人ではひろすぎたようで来年はもう少し賑やかだといいな。トイレ照明は一晩中つけたまま。



●8/25(日)【鬼怒沼登山】

○5 時少し前、宿の窓から日の出前の空を見上げると、どうやら天気は良さそう。外気はひんやり、やや寒さを感じる。20℃くらいだろうか。もう一眠り。6:00 起き出す。朝食後、宿の玄関前に12名全員集合、関根が記念写真を撮る。昨日鬼怒沼山を往復し、今朝帰宅する渡邉・石沢・山本の3人を見送り、残りの9名は予定通り8:00 猛暑の下界を離れ心地良い涼気を感じながら鬼怒沼に向け出発。加仁湯の標高は1370m位、そして鬼怒沼は2020mという。今日の行程は標高差約650mの往復である。○沢沿いの登山路は一昨年の東日本大震災の地震と

一次沿いの登山路は一昨年の東日本大震災の地震と その後の大雨での被害復旧工事中、柳橋沢に架か る仮橋を渡る。日光沢温泉の水場に立ち寄る。傍に は40cmもあろうかと思われるほどの大きな岩魚が 入った2つの水槽があった。ここから登山道らし い登りが始まる。丸沼への分岐点を過ぎ急な階段 状の左岸を登りオロオソロシの滝展望台で休憩。 涼しいとは言え少々汗ばんできた。 本流に流れ 込む土石や倒木で荒れた枝沢を渡り、今日の行程 の核心部である幾つもの急な階段状の登路を進む。 対岸の崩れた岩肌や岩に阻 まれた流木が眼を惹く。10 時 過ぎ、ベンチのある休憩場所 で軽食と水分補給、最後の登 りに備える。青空が見え隠れ する程度で、南方向には木の 葉越しに遠望の山々が目に 入るが、不案内の私にはその 名前は皆目見当が付かない。

○11:00 を少し過ぎた頃、よう やく森林帯を抜け出し、鬼怒 沼の南端に出た。広々とした 高層湿原に点在する池塘は 一昨々年に比べ水量が多く 美しく感じた。水面に映る奥 白根山から左に連なる根名





草山、大嵐山の峰々を眺め、足下の亜高山帯植物 (?) を観察しながら北に向かってのんびり木道 を歩く。やや広くなった木道上で昼食。彼方の青空 には層積雲、盛りを過ぎたバイケイソウやアキノ キリンソウ(?)、湿原一帯は早くも草紅葉の風情 を感じさせる。少し先に行くと左手奥に燧岳が見 えた。関根さんが全員集合の記念写真撮影。



○下山開始 12:00。途中、樹林の間に奥白根も男体も 垣間見えた。13:30 ベンチのあるところで休憩。山 野井支部長を先頭に全員元気に下山。加仁湯着 15:15。宿の温泉で汗を流しサッパリ。16:00 玄関 前で支部長の挨拶後ひとまず解散。宿のマイクロ バスで全員女夫渕へ向かう。

第5回役員会 • 事業委員会

日 時:2013年8月24日(土)17:30~

場 所:夏山山行時、加仁湯 参加者:役員17名中7名

○懇親会に先立ち、支部役員会を開く。来年2月の茨城・千葉支部との三支部合同懇親会が、今年設立された群馬支部が加わり四支部合同懇親会となる旨が報告。来年の夏山山行は8月23~24日に加仁湯で行い、群馬支部にも声をかけて参加を求めることにした。来年はより賑やかになることを期待して、皆様の参加をお待ちしています。

第36回那須クリーンキャンペーン &清掃登山(栃木県山岳連盟と共

日 時:2013 年8月31日(土)、9月1日(日) 場 所:那須、峠の茶屋園地、茶臼岳周辺

参加者:12名(森、坂口、臼田、仙石、蓮實、北見、

東、内間、仲畠、鈴木、稲葉×2)

行動概要:峠の茶屋駐車場(開会式)7:30~ロープウェイ山麓駅…山頂駅 9:00~牛ヶ首9:30~南月山10:30~牛ヶ首12:00~山

頂駅 12:40…山麓駅~峠の茶屋駐車場

○今回から「山の日」の制定運動とタイアップして実施されことになり、開会式には、初めてとちまる君も参加。本支部会員も開会式後にとちまる君と記念撮影をした。その後各会員は所属山岳会などに分かれ、森、蓮實、内間、稲葉×2は南月山を往復した。花の名前を教わりながら歩いていたので、リンドウやトリカブトなどいつも目につく花ばかりでなく、イワインチンの花も見ることができ、収穫だった。帰りはゴミを拾いながら歩いたが、あまりゴミを見かけなかった。





第6回役員会•事業委員会

日 時:2012年11月3日(日)14:00~14:45 場 所:コンセーレ内タイムズスクエア

参加者: 役員 17 名中 11 名

○山野井支部長の挨拶の後、夏山山行・那須クリーンキャンペーン・新入会員【深谷優子(15382)・君島敏明(15384)】等の報告があった。ヒマラヤの集いの役割分担、秋山山行・秋季講演会・四支部合同懇談会について協議した。

第5回「ヒマラヤの集い」講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時:2013年11月3日(日)15:00~16:40 場 所:宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール

講師:北村誠一氏(宇都宮渓嶺会)

演 題:「2013年夏 世界第二の高峰K2登山と

カラコルムの世界」

参加者:本支部会員 17 名、一般 78 名、計 95 名

- ○今年もコンセーレ様との共催で本支部の社会貢献 事業の一環として「ヒマラヤの集い」を実施した。 講師は栃木県民初のエベレスト登頂者、北村誠一 氏(栃木ヒマラヤ研究会、K2登山隊 2013 登山隊 長)。4人に一人が命を落とす『非情の山』、世界一 登頂が難しいと云われる世界第2位の高峰K2 (8611メートル)に登山隊長として挑んだ貴 重な体験を語って頂いた。
- ○当日は開演の30分以上前から受付に大勢の人が集 まっていた。山野井支部長の挨拶に続き、講演が開 始された。カラコルム山脈の美しい写真を見なが ら、軽快なトークで出発から登頂を断念するまで の経緯を解説していただいた。パキスタン政府の 登山許可がおりるのに時間がかかったこと。バル トロ氷河のキャラバン中、コンコルディアから GIV、 K2、ブロードピーク、チョゴリザの景色がすばら しかったこと。ブロードピークに昇る月が驚くほ ど明るかったこと。同時期、ナンガパルパットの BC でタリバンによる襲撃事件があり、11 人が殺害 されたこと。ブロードピークでイラン人3人が亡 くなったこと。ABC には遺体が残されていたこと。 北村隊は皆元気で食料が足らなくなるほどだった こと。他国からの遠征隊との交流。C2 までは北村 隊がルート工作のロープを張ったこと。大量の降 雪後、第3キャンプ(7400m)へ向かった唯一の隊 であるニュージーランドの親子が雪崩に巻き込ま

れ、犠牲になったとみられること。雪崩の危険が大きく、登山活動の中止を決断するまでの心情などを聞かせていただいた。講演終了後、質疑応答、花束贈呈、石澤委員の謝辞で、盛会の内に幕を閉じた。その後は、北村氏を囲んで会員同士の懇親会があり、大いに盛り上がった。



秋山山行

日時:2013年11月4日(月)

場所: 荒海山(1580m)

参加者:会員10名、他3名の13名

坂口、鈴木、渡邉、前田F、上田、石澤、内間、

佐藤、猿山、増渕、藤田礼子、神長善次親子

行動概要

道の駅たじま発8:55=会津高原尾瀬口9:05= 林道終点発9:30…避難小屋13:20…荒海山頂 …駐車場着16:50=「夢の湯」入浴、解散17:40



○渡邉事務局長以外の12名が『道の駅たじま』に集 合。栃木県側は曇りで福島県側に入ると小雨模様。 紅葉は見頃なのに残念。前田車・鈴木車・石澤車に 分乗して 8:55 発。『会津高原尾瀬口』で渡邉と合 流、9:05 発。林道の終点が荒海山登山口であるが、 最後の沢を渡る手前の空き地に駐車。準備体操後 9:30 発。出発時には雨もあがり雲の切れ間も見え る。登山口まで10分。登山口からは沢伝いに登り、 さらに沢を渡る稜線の尾根に出るまではかなりの 急登。途中何カ所がロープがあり、滑りやすい沢筋 の急登に汗がでる。11:10 稜線に出る。ここまでは 薄日がさしてきたりして紅葉がきれいだ。稜線に 出てからはアップダウンを繰り返しながら山頂を 目指す。12:00 頃急に雨が降り出しカッパを着用。 雨になると登山道が滑りやすくなり、ペースもお ちる。最後の急登を越えると避難小屋があり頂上 はすぐだ。避難小屋着13:20。昼食をとり早々に出 発。山頂で記念写真を撮り、13:50 下山開始。尾根 道から沢に下りる分岐 15:40 着。最後の急な下り を下りる。途中で往路途中で別れた坂口氏に無事 合流。予定より時間がかかり、心配をかけた。駐車 場 16:50 着。何とか暗くなる前に到着できた。駐 車場から『夢の湯』に行き汗を流す。同ロビーにて 17:40解散。





第7回役員会 • 事業委員会

日 時:2013年12月1日(日)14:00~14:50

場 所:コンセーレ内タイムズスクエア

参加者:役員18名中13名

○秋山山行・ヒマラヤの集いの報告、四師部合同懇談 会の案内等がある。「山の講演会」(今回から「秋季 講演会 | から名称変更)の役割分担、四支部合同懇 談会・春山山行・YOUTH 活動について協議した。

第7回「山」の講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

時: 2012年11月10日(土)15:00~17:00

場 所:宇都宮市『コンセーレ』1階大ホールA

参加者: 会員 27 名、一般 117 名、計 144 名

講 師:猪熊隆之氏(気象予報士、中央大学山岳部 監督、国立登山研修所専門調査委員・講師、 山岳気象専門会社「ヤマテン」代表取締役)

題:「山岳気象の基礎と遭難事例から学ぶこと」

- ○昨年の第6回までは「秋季講演会」と銘打って実 施。しかし時期的に秋季というのは無理があるの で、今年から『「山」の講演会』に名称変更をした。
- ○猪熊講師はパワーポイントを使って講演され、配 付資料まで用意していただいたので、参加者はそ の資料を見ながら講師の話に耳を傾けることがで き、よりわかりやすい講演会となった。山登りに 100%ということはなく、同様に山の天気予報にも 100%ということはない。 想定外のことも起こりう るのは当然。だからできるだけ想定外のことを減 らして想定内を増やすことが、気象遭難を未然に 防ぐのに大切なこと。そこで大切なのは、3日先ま での予想天気図のチェックすること、地図で登山 ルートを検討して森林限界付近・尾根に出る地点・ 主稜線に出る地点をチェックすることである。
- ○天気図がわからないといって諦めるのでなく、ま ずは天気図から風向と風の強さを読み取り、目的 の山の位置を地図から把握することから始めよう。
- ○第1部:山岳気象の基礎、第2部:過去の山岳遭難 事例から学ぶ、第3部:栃木県の気象遭難を講演さ れた。これまで7回の講演会を実施したが、今回は 過去最多の 144 名の方に参加をいただいた。
- ○講演会終了後、講師を含めて20名で栃木支部忘年 会を兼ねて講師を囲んでの懇親会を開いた。山野 井支部長に続いて日下田顧問から挨拶・乾杯をい ただき、特別ゲストの栃木県山岳連盟の喜内会長 からも挨拶をいただいた。新入会員の君島さんも 初参加で、和気あいあいと時がたったことでした。





これまで7回の講演会を開催しま したが、最多の参加者でした



懇親会に参加された皆さん

JAC YOUTH 冬山山行

日時:2013年12月15日(日)

場所:日光白根山

参加者:深谷篤志(15212)、荒井理(宇工 0B)

行動概要

湯元着 7:00、同発 7:30…湯場見平 10:00…

国境平 12:20…湯元 14:40

○日光街道沿いの駐車場に5:30に集合し、一台の車に荷物を載せ換え出発。まだ暗い中を日光に向かう。途中、旧日光市に入る辺りから雪がちらつき始め、いろは坂に入る頃は一面雪景色となる。スリップに気を付け登っていく。この時期にしては、積雪が多く感じられる。上の方はもっと積もっているのだろうなどと想像してみる。

○湯元着7:00、気温も下がり冬山に来たという感じ でワクワクする。冬用の装備をつけ7:30出発。大 田原高校山岳部も登りに来ると聞いていたがまだ 到着していない。他の登山者の踏み跡もなく私た ちが一番乗りのようだ。中曽根の登山道に入る。 楽しい楽しいラッセルの始まりである。積雪は膝 の高さくらい、一歩ずつ進んでいく。歩きづらい ということもなく順調に登ってゆく。湯場見平着 10:00。植生が変わり笹が増える。この笹がふき だまりを作りなかなか歩きづらい。それでもラッ セルを交代しながら高度を稼いでゆく。 傾斜が きつくなってくると雪も腰の高さくらいまでくる ようになった。なかなか進まない。途中の休憩で は、母が作ってくれた「みょうがの梅酢漬け」を 食べる。ラッセルをして心地よい疲労を感じてい る体には絶品であった。国境平着12:20。この手 前辺りからかなり風が強くなってくる。かるい吹 雪のようだった。積雪はやはり腰の高さくらいは あった。五色山まで行ければ良いと思っていたの だが、雪の量と時間を考え下山開始12:40。流石 に帰りはラッセルがないので速い。湯場見平まで 来ると、急に踏み跡がしっかりついている。後で 聞いたのだが大田原高校山岳部がここまで登って 来たらしい(部員は40人ほどで踏み跡が川の流れ のようになっていた。私も同じ山岳部出身だが当 時は4人しかいなかった) 湯元着14:40。あまり上 の方まで行けなかったのは残念だが、沢山の雪と 冬の厳しい風に接することができて、充実した山 行だった。

○最後にJAC youth 栃木 として第一回目のの山行 だったが、このような機会をいただき先輩方には 心より感謝申しあげます。これからもこのような 報告ができるよう頑張りたいと思う。





第8回役員会•事業委員会

日 時:2014年1月26日(日)17:00~18:00

場 所:コンセーレ内タイムズスクエア

参加者:役員 18 名中 12 名

○「山」の講演会・忘年会、年次晩餐会、支部長会議、 事務局長会議、YOUTH 冬山山行等の報告がある。ま た四支部合同懇談会の詳細な内容について検討す る。さらに春山山行、平成 26(2014)年度の事業計 画・予算について審議する。また前田委員より役員 会召集などのメーリングリストの提案があり、サ イボウズを使用してみることになった。またホー ムページ作成を麦倉委員に委嘱することになった。 また夫婦で支部会員となっている場合には、支部 会費は一人分にする方向で検討することになった (正式には支部規約を改正する必要があるので、次 年度総会で決定することになる)。

第7回·三支部十群馬支部 合同懇談会

日 時:2014年2月1日(土)~2日(日) 場 所:足尾銀山平·国民宿舎『かじか荘』

松木渓谷散策、足尾銅山観光

参加者:本支部 15 名、千葉支部 15 名、茨城支部 12 名、群馬支部 4 名、会長 1 名:総数 47 行動概要

●2月1日(土)

- ○2月としては珍しく、穏やかで暖かい日光・足尾に参加者を迎えた。日光では国民体育大会冬季スケート競技会の開催中。JR日光駅に12:30集合、マイクロバス等で足尾公民館に移動。東武鉄道の事故で列車の大幅な遅れが心配されたが、事なきを得た。自家用車組は現地集合。本支部の役員は、足尾公民館着12:00で準備にあたった。
- ○足尾公民館にて受付開始 13:30、13:45 から 4 支部 長会議を開催した。今後は名称を「4 支部合同懇談 会」とすること、次年度からの主管の順番を千葉→ 茨城→群馬→栃木の順とすることを決めた。
- ○14:00 から開会行事を行う。山野井支部長から歓迎の挨拶、森会長から祝辞と山岳会の現況報告があった。さらに各支部から、支部活動の概要の説明があった。その後14:30~15:30まで記念講演となる。講師はNPO 法人足尾歴史館館長 長井一雄氏で、演題は「足尾銅山の歴史ー光と陰ー」であった。参加者は知らなかった足尾の歴史の一端に触れることができ、大変勉強になった。その後、15:45~16:30、長井一雄氏の案内で、足尾歴史館を見学し度説明を受けた。講演内容の理解を深めることに大いに有意義であった。
- ○国民宿舎「かじか荘」へマイクロバス等で移動し、 部屋に落ち着いてからは、温泉入浴で疲れをとっ た。18:30より懇親会となる。坂口監事の挨拶、田 中群馬支部長の乾杯で開宴。宴会席はくじ引きで 決め、各支部員の懇親を大いに深めた。諏訪千葉支 部長と星埜茨城支部長から中締めの挨拶をいただ き、盛会裏に終了。その後は、各支部の二次会部屋 でさらに懇親を深めた。

●2月2日(日)

○この日も穏やかな晴天に恵まれた。8:00 宿舎発、 足尾ダム駐車場へ移動、その後松木渓谷を散策(旧松木村跡付近)した。公害の爪痕の風景を観察し、 昨日の講演内容の理解をさらに深めることになった。旧松木村跡で各支部毎の記念写真を撮影した。 なお当初の予定は、備前楯山登山であったが林道 の凍結等で危険なため、参加者には事前に変更を 連絡しておいた。その後マイクロバス等で足尾銅山観光へ移動し、足尾まるごと井戸端会議代表 山田功氏から銅山観光の説明を拝聴、氏の案内で 坑道内に入り当時の様子を見聞(10:30~12:00)。 12:30~13:30「植佐食堂」にて昼食をとり、閉会と した。その際、来年開催の千葉支部長から、次回開 催の挨拶をいただいた。その後、自家用車組以外は 東武日光駅までマイクロバスで送った



























猪熊講師の本の書評を渡邉会員が書きました!!

「山」の講演会の猪熊講師が『山岳気象予報士で恩返し』という本を書かれていますが、そ の書評が『山と渓谷』2014年3月号に掲載されました。書評担当は渡邉雄二会員です。



今月の一冊

『山岳気象予報士

猪艄隆之 著

に自然と共生した「人間的な子報」で ンピュータにはできない作業で、まさ

いのくま・たかゆき 1970年生まれ。山岳気象 専門会社「ヤマチン」代表。国立登山研修府等 門調査委員兼講師。最近話題の高所登山坂功の 館には、この人の予報あり、と評判に。著書に 「山岳気象大全」(小社刊) がある。

は登頂に成功したのである。この報告 を出し、「登頂予定日は快晴弱風」を 雲や風の気持ちになり 人間的な手報 氏はそのような状況にもかかわらず、 は極めて危険」との予報を受けていた。 社から「今後数日、大雪が続き、登頂 数十隊がおり、欧米などの気象予報会 ところである。当時のエベレストには 人であり、その登山の一部始終を知る とは私も常に連絡を取り合っている友 のエベレスト公募登山隊への配信であ では、世界文化遺産「富士山」の独特 予報した。結果、天気になり、この隊 った。ガイドの山本館・角谷道弘尚氏 則途洋々たるものと確信した。 を受けたとき、私は氏の今後の活躍が 第2章「天気予報の現場」国内編

> 240ページ 三五館費03

3226-0035 四六制

1575円 13年11月

ある。 報は役立ったと評価された。 氏のエベレスト最高齢登頂でもその予 が記されており、最近では三浦雄一郎 モトさんのアルプス登山の予報の詳細 **組「世界の果てまでイッテQ!」のイ** の登頂成功に至る天気予報、テレビ番 では、竹内洋岳氏の8000m峰11座 ヒマラヤでの初めての手報は、 第一章「天気予報の現場」海外編

京島

人気・山岳 気象予報士の 不屈の精神

渡邊雄二-四書

土」であったのである。 経験を克服した氏の回答が

第5章「恐怖の慢性骨髄炎」気象予

わたなべ・ゆうじ 1951年生まれ。 独立行政法人日本スポーツ保興セ

氏は、登山者の安全に資するために国 温症の危険性を指摘している。そこで の警鐘を鳴らして安全登山への提言を の気象条件に言及し、高所順応や雷 を13年に設立し、主な山域の天気予報 内唯一の山岳気象専門会社「ヤマテン 難事故については、気象の面から低体 しており、北海道・トムラウシでの清

こでは93年11月末に発生した痛恨の富

第4章「生と死に係わる私語」、こ

士山屏風岩尾根での滑落事故が記され

る。まさに奇跡という救助劇であった

が、氏にとっては人生の試練の始まり

文登研(現在の国立登山研修所)での

克服と登山の再開、急性肝炎の罹患、 であった。開放性骨折の重傷、怪我の

は私の後輩でもあり友人でもあったの

マラヤニストの遺離事故死など。彼ら 学び、山岳部の後輩や岳友であったヒ

てしまった。そのような死に直面した で読み進むうちに涙を禁じ得なくなっ

気象子報

気持ちになって想像を膨らませ、科学

形を徹底的に頭に叩き込み、雲や風の

氏の予報の手法は、山の地

熊隆之氏は、今売れっ子の 山岳気象子報士」である。

地形などから導き出すのだという。コ 的なデータや過去の登山経験、実際の

ンター国立登山研修所員。2010年 より現職。中央大学山格部OB。

だからこそ与えられた試練」をモット 辛いと思えることでも、 とのすべてが「山岳気象子報士」とし この上なく明るいものと確信したので 知る私にとっては、氏の未来は夢多き 望へ、気象予報士の受験など、心の葛 山登りを通しての、楽しいこと辛いこ とは小さいころからの"夢"であった。 富士山での事故からこれまでの活躍を に明るく会話が弾み、氏の不屈の精神 し、私が病室を訪ねるとパソコンを前 闘病生活が描かれている。絶望から希 いってほしい思う。 て登山者のために「恩返し」を続けて ーに、不屈の精神で今後の活躍を通し ての仕事に凝縮している。「どんなに 藤はいかばかりであっただろう。しか 報士を目指して」では、慢性骨髄炎の 氏にとっては、気象の世界で働くこ それは自分に

では、幼少期の地理や天気への興味が する経験を蓄積した時代でもあった。 山岳部での生活は「人間的な予報」を 綴られていてほほえましい。中央大学 第3章「落ちこぼれ、山岳部にいく 山者を見守っているのである。 想されると「大荒れ情報」を出して登

気象遺難のおそれがある荒天が予

199 yama-to-keikoku 2014.03

おもしろ写真コーナー!!!

過去一年間の行事を編集していて、面白いと思った写真をのせてみます。編集者の独断と偏見に満ちています。どうしても懇親会での酔態の写真が多いようですね。共通して言えるのは、どなたもお顔がお猿さんのようで真っ赤、とても楽しそうだということです。



支部会員名簿

【2013(平成 25)年5月18日現在】

| No. | 会員番号 | 氏 | 名 | 備考 |
|----------|----------------|----------|----------------------|---|
| 1 | 4146 | 日下日 | | 顧問 |
| 2 | 4255 | 堀越 | 1 頁 利男 | /##(10) |
| 3 | 4633 | 山野 | | 支部長 |
| 4 | 4661 | 森 | ,元、 | 244424 |
| 5 | 5201 | 松井 | | |
| 6 | 5346 | 沖 | 允人 | 監事 |
| 7 | 6189 | 小島 | 守夫 | 委員 |
| 8 | 6956 | 井上 | 孝郎 | |
| 9 | 7914 | 渡邉 | 雄二 | 事務局長 |
| 10 | 7973 | 坂口 | 三郎 | 監事 |
| 11 | 8383 | 前田 | 洋子 | |
| 12 | 8386 | 牛窪 | | |
| 13 | 8432 | 前田 | 文彦 | 委員 |
| 14 | 9265 | 石沢 | <u>好文</u> | 委員(事業) |
| 15 | 9267 | 臼田 | 徳雄 | |
| 16 | 9307 | 佐藤 | 清衛 | 7.0 |
| 17 | 9350 | 山本 | 武志 | 委員 |
| 18 | 9921 | 乾田 | 能尚 | 中米 |
| 19 20 | 10416 10459 | 上田 仙石 | <u>景子</u> | 事業 委員(事業) |
| | 10459 | | 富英 | |
| 21 | 10909 | 連實 | <u>淳夫</u> | 自然保護 |
| 23 | 11381 | 中村 | 靖弘 | |
| | | 関根 | 和男 | |
| 24 | 11402 | 渡辺 | 剛 | |
| 25 | 12503 | 菱田 | 克彦 | |
| 26 | 13906 | 吉田 | 春彦 | |
| 27 | 14400 | 梶谷 | 博 | |
| 28 | 14419 | 斎藤 | 隆 | |
| 29 | 14438 | 神島 | 仁誓 | 委員(事業) |
| 30 | 8282 | 上野儿 | 孝一 | |
| 31 | 12466 | | 百合子 | |
| 32 | 14475 | 北見 | 正光 | |
| 33 | 14483 | 東 | 和之 | 自然保護 |
| 34 | 14510 | 桑野 | 正光 | |
| 35 | 14518 | 猿山 | 浩 | 事業(山) |
| 36 | 14527 | 稲葉 | 昌弘 | 事業 |
| 37 | 14529 | 麦倉 | 常治 | 事業(山) |
| 38 | 14536 | 後藤 | 尚 | 事業(山) |
| 39 | 14626 | 内間 | | |
| 40 | 14646 | 杉田 | | |
| 41 | 14650 | 早川 | 和子 | |
| 42 | 14652 | 山口 | <u> </u> | |
| 43 | 14656 | | <u> </u> | |
| 44 | 14667 | 増渕 | <u>仁一</u> | |
| 45 | 14674 | 船村 | _ 徹 | |
| 46 | 14679 | | | 事来 |
| 46 | 14679 | 仲畠 | 正子 | 事業 |
| 47 | | 吉澤 | 照子 | |
| | 14721 | 鈴木 | 清一 | 事業(************************************ |
| 49 | 15212 | 深谷 | 篤志 | 事業(YOUTH) |
| | | | | |

平成 25 (2013) 年度 **総会の記録**

日時: 2013(平成 25)年5月18日(土)

総 会 16:00~【2F会議室】

懇親会 17:00~【2F222号室】

場所:コンセーレ【(財) 栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行:稲葉 昌弘

1 開会の言葉 小島 守夫

2支部長挨拶山野井 武夫3来賓挨拶【理事長不在のため省略】

4 議長選出 議長:前田 文彦

5 議事

(1) 平成 24 年度事業報告について 渡邉 雄二

(2) 平成 24 年度決算報告について 石澤 好文

(3)監査報告 坂口 三郎

(4)平成25年度事業計画(案)について渡邉雄二

(5) 平成 25 年度予算(案) について 石澤 好文

(6) JAC YOUTH 栃木の委員会設置

について 渡邉 雄二

(7) 役員及び委員会委員について 渡邉 雄二

(8)25年度支部会員名簿について 渡邉 雄二

(9) その他

6 出席者近況報告(新会員紹介)

7 閉会の言葉 山本 武志

◇◇懇親会次第◇◇

進行:石澤 好文

1 開会の言葉 仙石 富英

2 顧問挨拶 (略)

③ 乾 杯 坂口 三郎

 懇 談
 (会員によるスピーチ)

 4 閉会の言葉
 後藤 尚

※なお議事については、全て原案通り 承認されました。

栃木支部役員

会計監事

顧 問 日下田 實(4146) 支 部 長 山野井 武夫(4633)

副支部長 渡邊 雄二(7914)(事務局長)

委 員 小島 守夫(6189)

前田 文彦(8432)

石沢 好文(9265)(会 計)

山本 武志(9350)

仙石 富英(10459) 神島 仁誓(14438)

坂口 三郎 (7973)

牛窪 光政(8386)

○各委員会委員

支部自然保護 委員長 石澤 好文(9265)

委 員 蓮實 淳夫(10885)

委 員 東 和之(14483)

山の日プロジェクト委員長 麦倉 常治(14529)

委員猿山 浩(14518) 委員後藤 尚(14536)

事業委員会 委員長 麦倉 常治(14529)

委 員 前田 文彦(8432)

委 員 石澤 好文(9265)

委 員 上田 景子(10416)

委 員 仙石 富英(10459)

委 員 神島 仁誓(14438) 委 員 猿山 浩(14518)

委 員 稲葉 昌弘(14527)

委 員 後藤 尚(14536)

チ 早 44g エフ (14ggg)

委 員 仲畠 正子(14679)

JAC YOUTH 委員会 委員長 深谷 篤志(15212)

平成 25(2013)年度事業計画

1 栃木支部報第6号発行 H25·04·01

2 春山登山 H25·04·14

3 平成 25 年度総会 H25·05·18

4 第6回山岳映画の夕べ H25·06·29

E 日火小衣持扫水小

5 日光山系清掃登山 H25·07·07

6 親子登山教室 H25·08·03~04

7 夏山山行・懇親会 H25・08・24~25

8 那須岳クリーンキャンペーン H25·09·01

9 第5回ヒマラヤの集い H25·10·?

10 秋山山行 H25·10·?

1 1 第 7 回秋季講演会 H25·11·?

1 2 新年会・冬山山行 H26·01·?~

1 3 三支部合同懇談会 H26·02·01~02

平成 25(2013)年度予算

I収 入 400,000円

(内訳)支部会費 100,000 円(@2,000 円×50 人)

助成金125,000円(@2,500円×43人)

繰越金 156,440円

雜収入 18,560円

Ⅱ支 出 40,000円

(内訳)通信費 80,000円(総会,支部通信の郵送費等)

事 業 費 250,000円(講演会・支部だより等)

会 議 費 30,000円(総会,集会の会場費等)

消耗品費 30,000円(事務用品等)

予備費 10,000円

Ⅲ残 額 0円

事務局より

- ○『栃木支部報』第7号を総会当日みなさんにお届け することができました。
- ○多くの各事業記録担当者が報告書のデータをメール等で送付していただけるので助かっています。 感謝!感謝!ただし、スペースの関係で各事業報告をそのまま掲載することはできませんので、編集担当が適宜省略したり、できるだけ文面を統一するために文言を変更したりしておりますので、ご了承ください。
- ○事業が終了しましたら報告書を作成されることか と存じますが、報告書と写真等を必ずメールにて 送信いただきますようにお願いします。当方のメ ルアドです。

kami-jin@sepia.plala.or.jp

- ○今回は会員投稿のページに、多くの会員から貴重な原稿をお寄せいただき、有難うございます。特に 山野井支部長の50年前のセピア色の写真をめぐる 旅の話は、何かジーンとくるものがありました。
- ○おもしろ写真コーナーのページを新設しましたが、 会員各位からもどんどんお寄せください。
- ○この他にもいろいろなページを考えたいと思います。 個人山行の文・写真、ご自分でこだわって調べてい ること、私のこだわりの趣味等々、新企画のご提案 等がありましたらご遠慮なさらずにご一報下さい。 みんなで支部報を作り上げましょう!!

なかな あとがき かか

- ●一日も早く「山の日」が実現するといいですね。
- ●また,楽しい企画のご提案, 山行等の寄稿があればどし どしお寄せください。(カミジ

